

大學 · 高等學校 · 專門學校

全國有名校歌集

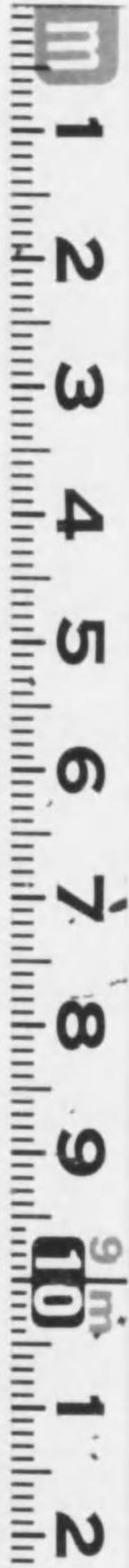
(樂譜付)



特270

407

始



特270
407

大學 · 高等學校 · 專門學校

全國有名校歌集

(樂譜付)



序を代へて

嗚乎玉杯に花受けて

綠酒に月の影宿

治安の夢にふけりたる

榮華の巷低く見て

向ヶ丘にそより立つ

五寮の健兒意氣高し

胸を張り肩を聳やかして一高健兒の高唱する寮歌は、若き日の燃ゆる情熱と、輝く希望の光に満ち溢れてゐる。

序を代へて

■

あれ見よかしこの常盤の森は

心の故郷我等の母校

集り散じて人はかはれど

同じ志を抱いて幾百の學生が朝な夕なに心を練り、學を磨く都の西北早稻田大學、その常盤の森にこだまして聞ゆる校歌こそは、久遠の理想持て眞理の探究に志す彼等の、力強くも輝き映ゆる青春の讃歌でなくて何であらう。

青春の讃歌！そうだ。全國幾百千の學校の校歌は直ちに取つて以て全日本幾百萬の若人の青春の讃歌であると云へる。

みなぎる希望、ほとばしる熱血、燃ゆる様な意氣を胸に潜め闘志満々として實社會の大洋に船を出さんとする青年等が感激に満ちて歌ふ人世の行進曲に校歌ほど相應しいものは有るまい。

その一つ／＼に各々の校風、特色を表せる金玉の名歌數十を集め、是にハーモニカ樂譜を附して公刊する所以も又即ち其處に有る。

本書に收むる所の校歌は何れも各校の許可を得て掲載せしもの、歌詞は絶對正確で有り、又ハーモニカ樂譜も最も正確其點坊間に流布されし同種の書と大に其選を異にする。

尙本書の編纂に就て大關竹治氏の盡力に俟つ事が多い。此處に改めて深甚の謝意を表する次第である。

序を代へて

一九三〇・三・二二

城南の寓居にて

編者識す

目次

早稻田大學校歌	五
同 應援歌	七
同 第二應援歌	九
慶應義塾大學塾歌	一一
同 應援歌	一四
同 野球部歌	一七
同 山岳部歌	一九
東京第一高校紀念祭寮歌	二三
同	二七
同 全寮々歌	二九
同 野球部歌	三三
東京帝大綠會々歌	三六
明治大學校歌	四一
中央大學校歌	四三
日本大學應援歌	四五
法政大學校歌	四七
立教大學校歌	四九
商科大學校歌	五一
同 ボート應援歌	五五
同 利根川遠遭歌	五七
同 豫科の歌	六一
東洋大學校歌	六五

目次

一

國學院大學校歌…………… 六七
 駒澤大學自治の歌…………… 六九
 東京高等工業學校々歌…………… 七一
 東京高等師範桐花寮歌…………… 七三
 日本齒科醫專校歌…………… 七五
 日本女子大學櫻楓會々歌…………… 七七
 東京女子高等師範校歌…………… 七九
 大倉高等商業學校應援歌…………… 八一
 北海道帝大惠迪寮歌…………… 八四
 京城帝大豫科校歌…………… 八七
 浦和高校應援歌…………… 八九
 水戸高校紀念祭寮歌…………… 九一
 京都第三高校寮歌…………… 九五
 同 野球部歌…………… 九九
 大阪高校寮歌…………… 一〇一
 同 應援歌…………… 一〇五
 名古屋高商校歌…………… 一〇七
 關西學院校歌…………… 一〇九
 同志社大學校歌…………… 一一一
 奈良女子高等師範校歌…………… 一一三
 神戸女學院校歌…………… 一二五
 長崎醫科大學寮歌…………… 一二七
 熊本醫大豫科校歌…………… 一二九
 仙臺第二高校々歌…………… 一三二
 弘前高校々歌…………… 一三三

岡山第六高校々歌…………… 一二五
 松江高校々歌…………… 一二七
 松本高校々歌…………… 一三一
 神戸高等商船校歌…………… 一三三
 名古屋第八高校々歌…………… 一三五
 静岡高校々歌…………… 一三七
 金澤第四高校寮歌…………… 一三九
 新潟高校紀念祭歌…………… 一四一
 山形高校寮歌…………… 一四三
 熊本第五高校全寮歌…………… 一四五
 鹿兒島第七高校全寮々歌…………… 一四七
 山口高校々歌…………… 一四九
 佐賀高校紀念祭歌…………… 一五一

早稲田大學校歌

4/4

5		<u>iiii</u>		<u>i 76 5 3.4</u>		5 — 3 <u>6.5</u>		5 — 0 5	
み		やこのせ		いほくわせ		だ		のもり	
								に	
								そ	
		<u>iiii</u>		<u>i 76 5 3.4</u>		5 — 5 <u>3.2</u>		1 — 0 <u>3.4</u>	
		びゆるい		らかはわれ		ら		がほか	
								う	
								われ	
		<u>5 3 5.6 7</u>		<u>i — 0 5.4</u>		<u>3 1 3 5</u>		<u>2 — 0 3.4</u>	
		らがひごろ		のほう		ふなしろ		やしん	
		<u>5 3 5.6 7</u>		<u>i — 0 5.4</u>		<u>3 1 3.2</u>		<u>1 — 0 5.5</u>	
		しゆのせいし		んがく		のどくり		つげん	
		<u>5 — 5 6.5</u>		<u>5 — 3 3.4</u>		<u>5 — 3 6.5</u>		<u>5 — 0 i.i</u>	
		せなわす		れぬくを		んのりせ		うかが	
		<u>i — i 2.i</u>		<u>i — 5 3.4</u>		<u>5 — 5 3.2</u>		<u>1 — 0 3.4</u>	
		やくわれ		らがゆく		てなみよ		やわせ	
		<u>5 6.7 i 3.4</u>		<u>5 6.7 i 7.6</u>		<u>5 3.4 5 3.2</u>		<u>1 — 0</u>	
		たわせたわせ		たわせたわせ		たわせたわせ		だ	

早稲田大學校歌

一、都の西北早稲田の森に
我等が日頃の抱負を知るや
現世を忘れぬ久遠の理想

登ゆる薨はわれらが母校
進取の精神學の獨立
輝くわれらが行手を見よや

折返
早稲田
早稲田
早稲田

二、東西古今の文化のうしほ
大なる使命を擔ひて立てる
やがては久遠の理想の影は

一つに渦巻く大島國の
われらが行手は窮り知らず
あまねく天下に輝き布かん

三、あれ見よかしの常盤の森は
あつまり散じて人はかわれど
いさ聲そろへて空もとどろに

心の故郷、我等が母校
仰ぐは同じき理想の光
我等が母校の名を賞へん

早稲田大學應援歌

4/4

3 0 2	1 2 3 2	5 —	<u>i 0 6</u>	5	<u>3 0 1 3 2</u>
競	技の使め	い	母か	う	のめい
1 — — 0	<u>1.1 11 11 1</u>	<u>13 21 50 5</u>	<u>i i i i</u>		
よ	こころにめいじ	きたへきしく	るが	れの	
<u>i i 0 0 6 i 6</u>	<u>5 6.5 5 i.5</u>	<u>i — — 1</u>	<u>4 4 4 4 6</u>		
うで	ためす	はいま	ぞ	血	はもいにく
5 5 5 0 5	<u>i i 5 0 5 5</u>	<u>6 i 5 0 0 1</u>	<u>i — i. i</u>		
な	どる	こ	のいき	この	ちから
<u>i — — 3.2</u>	<u>i 7 6 5 6 7 2</u>	<u>i — — i</u>	<u>1. 1 1 i</u>		
の	みな	うち	くだ	く	しよ
					は
1. 1 1 3	<u>1 1 3 5 i</u>	<u>5 — — 3.2</u>	<u>5 6.5 i 2. i</u>		
が	もの	い	ざす	めと	れ
			ざあげ	よ	かち
			き		
<u>i — — i.2</u>	<u>3 3 3 2 0 5</u>	<u>i — — 3.2</u>	<u>5 6.5 i 2. i</u>		
ダ	むて	きの	わ	せ	だ
					ラセ
<u>3 — 0 i i 2</u>	<u>3 3.2 i 7 6 7</u>	<u>i — — 0</u>			
ダ	むて	きの	わ	が	早
					稲
					田

早稲田大學應援歌

競技の使命
母校の名誉
心に銘じ 鍛へさし
鐵の腕
ためすは今ぞ！ 今ぞ！
血は燃え肉躍る
この意氣この力
向ふもの皆打ちくだく
勝利は我がもの
いざ進め！ 取れ！
ワセダ〜〜
無敵の早稲田
ワセダ〜〜
無敵の我が早稲田

はや我れ勝てり
いざあけよ勝鬨

早稲田大學第二應援歌

全國有名校歌集

$\frac{4}{4}$

6 | 5 13 5i 3.4 | 30 20 i0 7i | 7 65 5 5i | 5 3 0 6.5 |
 あーわかきひのちは おどる はえ あるぼかうのために みす

5 13 5i 3.4 | 30 20 i0 23 | 2 72 2 23 | i 76 50 43 |
 やわれらがとも は た つ かが やくのぞみひ のひとみ わせ

2 43 2 43 | 2 0 0 32 | i 32 i 32 | i 0 0 32 |
 た わせ た わせ た わせ た わせ た わせ た わせ

i 76 5 6i | 7 65 3 65 | 4 32 6 65 | i 0 0 0 ||
 た わせ た わせ た わせ た わせ た わせ た わせ た

六

早稲田大學第二應援歌

一、あゝ！
 若き日の血は躍る
 榮ある母校の爲めに
 見ずや我等が友は起つ
 輝く望み！火の瞳み！
 ワセダ ワセダ ワセダ

二、あゝ！
 若き日の血は躍る
 母校は卿等に待つ
 振へ！
 振へ！我が友よ！
 輝く生命！火の力！
 ワセダ ワセダ ワセダ

全國有名校歌集

九

慶應義塾大學塾歌

$\frac{2}{4}$	1	5	<u>6.5</u>	<u>6.1</u>	<u>2.1</u>	<u>2.3</u>	2.	0
	てん	に	あふ	るる	ぶん	めい	の	
	5	<u>5.3</u>	2	1	<u>2.2</u>	<u>3.2</u>	1.	0
	しほ	とう	えい	に	よす	ると	き	
	<u>6.1</u>	5	3	2	<u>5.5</u>	<u>3.1</u>	2.	0
	けつ	う	せい	ふう	くも	くら	く	
	<u>5.5</u>	6	<u>5.3</u>	1	<u>2.2</u>	<u>3.2</u>	1.	0
	こく	みん	のゆ	め	まよ	うよ	に	

慶應義塾大學塾歌

- 一、天にあふるゝ文明の
血雨腥風雲くらく
潮東瀛によする時
國民の夢迷ふ世に
- 二、平和の光眩しと
新日本の建設に
呼ぶや眞理の朝ほらけ
人林植えし人や誰
- 三、使命ぞ重き育英の
山より高き徳風を
勳業千古に水長く
偉人の蹟に仰ぎ見る
- 四、心の花もうるはしき
獨立自尊の根も固く
宇内子弟の春一家
進取確守の實を結べ
- 五、修身處世の道しるき
兩大陸の文明を
慶應義塾の實學は
渾一に綜べし名教ぞ
- 六、形勝天賦の國にして
獨立自尊の旗風に
起てよ我友榮譽ある
廣く四海を靡かせん

6̣.6̣ 2— | 1 7̣ 6̣ 7̣ | 1— 2— | 3— 5̣.5̣ |
 じ つ の い き た か ら か に さ え

6— 2— | 1 7̣ 6̣ 7̣ | 1— — — | 1— 3̣.3̣ |
 ぎ る く も な き を — けい

3— — — | 3— 1.1 | 1— — — | 1— 5̣.5̣ |
 おう — けい おう — りく

5— 4.3 | 2— 1.3 | 5— — — | 5— 0— ||
 の なう じゃ けい おう — — —

慶應義塾大學應援歌

$\frac{2}{2}$ 1— 7̣.6̣ | 5— 6̣.5̣ | 5— 6̣.7̣ | 1— 3̣.2̣ |
 わ か き ち にも っ る も の こう

1— 7̣.1 | 2 1— 6̣ | 5— — — | 5— 5— |
 き み て る わ れ ら — き

2— 2— | 2— 5— | 1— .2 | 3— 1— |
 ぼ う の みよ う じよ う あ

2— 1.7̣ | 6̣— 2— | 2— — — | 2— 3̣.2̣ |
 な きて こ こ に — しょう

1— 7̣.6̣ | 5— 6̣.5̣ | 5— 6̣.7̣ | 1— 1.7̣ |
 り に す す む わ が ちが ら つね

6̣— .7̣ | 1— 2— | 7̣— — — | 7̣— 5̣.5̣ |
 に あ た ら し — みよ

1— 1— | 2— 2— | 3̣.2̣ 1.2̣ | 3— 5̣.5̣ |
 せい えい の つ どう と こ ろ れつ

慶應義塾大學應援歌

若き血に燃ゆる者

光輝満てる我等

希望の明星仰ぎてこゝに

勝利に進む我が力

常に新らし

見よ精銳の集ふところ

烈日の意氣高らかに

さえぎる雲なきを

慶應 々々 陸の王者 慶應

慶應義塾野球部々歌

$\frac{2}{4}$	<u>5. 5</u> <u>5. 5</u> <u>3. 3</u> <u>5. 5</u> <u>6. 6</u> <u>6. 6</u> 5. 0
	てん はー はれ たり きは すみ め
	<u>3. 3</u> <u>3. 3</u> <u>5. 5</u> <u>3. 1</u> <u>2. 2</u> <u>2. 2</u> 5. 0
	じそ んの はた かぜ ふき なび く
<u>5. 5</u> <u>6. 7</u> <u>1. 1</u> <u>1. 1</u> <u>2. 2</u> <u>3. 6</u> <u>5. 5</u> 5	
じょう なん けん じの ちは ほど ばし り	
<u>1. 1</u> <u>2. 3</u> <u>6. 6</u> <u>6. 6</u> <u>5. 5</u> <u>5. 5</u> 1. 0	
こー くに たち たる やき うだ ん	

全国有名校歌集

慶應義塾野球部々歌

一、
 天は晴れたり気は澄みぬ
 自尊の旗風吹き靡く
 城南健児の血は迸り
 此處に起ちたる野球團
 ラKO ラKO KOKO KOKO

二、
 勝利を告ぐる関の聲
 天下の粹ぞと仰がれて
 三田山上の秋月高く
 輝く選手の其功績
 ラKO ラKO KOKO KOKO

全国有名校歌集

慶應義塾山岳部々歌

$\frac{2}{4}$

$\underline{0\ 3}$ ま	$\underline{5\ 6}$ もれ	$\underline{1\ 2\ 3\ 2}$ ごん けん	$\underline{1\ 2\ 2\ 1\ 6}$ よあ けーよ	$\underline{5\ 3}$ きり	$\underline{5\ 1}$ よ
$\underline{0\ 6}$ や	$\underline{6\ 5}$ まは	$\underline{6\ 2\ 2\ 1}$ いの ちの	$\underline{6\ 1\ 1\ 6}$ みせ ぎば	$\underline{5\ 1}$ しよ	$\underline{0}$
$\underline{0\ 3}$ ψ	$\underline{5\ 6}$ けよ	$\underline{1\ 2\ 5\ 3}$ あら くれ	$\underline{2\ 3\ 3\ 2\ 1}$ どん どとー	$\underline{6\ 1}$ のぼ	$\underline{2}$ れ
$\underline{0\ 1}$ な	$\underline{2\ 5}$ つは	$\underline{3\ 3\ 2\ 1}$ なと この	$\underline{6\ 5\ 6\ 2}$ どきよ だめ	$\underline{1\ 1}$ し	$\underline{0}$

慶應義塾山岳部々歌

一、守れ権現夜明と霧よ

山は命の輓場所

行けよ荒くれれどんとと登れ

夏は男の度胸だめし

「ロツコンシヨウジャウ く」

二、何を奥山道こそなけれ

水も流るゝ鳥も啼く

馬子は追分山樵は木遣

朝は裾野の放し駒

「ロツコンシヨウジャウ く」

三、風よ吹け吹け笠吹き飛ばせ
 笠は紅緒の荒むすび
 雨よ降れ降れさんざとかくれ
 肩の着御座も伊達ぢやない
 「ロツコンシヨウジャウ く」

四、山は百萬石木萱の波よ
 木萱越ゆればお花畑
 月の御殿に氷の巖窟
 瀧は千丈の逆落し
 「ロツコンシヨウジャウ く」

五、さあさ火を焚けごろりとまゝよ
 木の根枕に嶺の月
 夢にや鈴蘭谷間の小百合
 酒のさかなにや山鯨
 「ロツコンシヨウジャウ く」

六、守れ権現鎮まれ山よ
 山は男の禊場所
 雲か空かと眺めた山も
 今ぢやわしらが眠り床
 「ロツコンシヨウジャウ く」

東京第一高等學校記念祭歌

$\frac{4}{4}$

<u>1.1</u>	<u>1.3</u>	<u>2.3</u>	<u>5</u>		<u>6.6</u>	<u>5.6</u>	<u>1̇</u>	<u>0</u>		<u>5.5</u>	<u>6.1̇</u>	<u>6.65</u>		<u>3.3</u>	<u>2.3</u>	<u>1 0</u>												
あ	あ	ぎ	よ	く	は	い	に			は	な	う	け	て	り	よ	く	し	ゆ	に	つ	き	の	か	げ	や	ど	し
<u>3.3</u>	<u>2.1</u>	<u>6.1</u>	<u>2</u>		<u>1.1</u>	<u>2.3</u>	<u>5 0</u>		<u>6.6</u>	<u>5.5</u>	<u>1.2</u>	<u>3</u>		<u>3.3</u>	<u>2.3</u>	<u>1 0</u>												
ち	あ	ん	の	ゆ	め	に				ふ	け	り	た	る	え	い	く	わ	の	ち	ま	た	ひ	く	く	み	て	
<u>1̇.1̇</u>	<u>6.5</u>	<u>6.1̇</u>	<u>2̇</u>		<u>3̇.2̇</u>	<u>1̇.6</u>	<u>1̇ 0</u>		<u>6.1̇</u>	<u>2̇.1̇</u>	<u>6.6</u>	<u>5</u>		<u>6.5</u>	<u>3.2</u>	<u>1</u>												
む	こ	う	が	お	か	に				そ	そ	り	た	つ	ご	り	よ	う	の	け	ん	じ	い	き	た	か	し	

全国有名校歌集

三

東京第一高等學校記念祭歌

一、
 嗚呼玉杯に花うけて
 緑酒に月の影やどし
 治安の夢に耽りたる
 榮華の巷低く見て
 向ヶ岡にそよりたつ
 五寮の健兒意氣高し

二、
 芙蓉の雪の精をとり
 芳野の花の華を奪ひ
 清き心の益良雄が
 劍と筆とをとり持ちて
 一たび起たば何事か
 人生の偉業成らざらん

全国有名校歌集

三

三、濁れる海に漂へる

我國民を救はんと

逆巻く浪をかきわけて

自治の大船勇ましく

尙武の風を帆にはらみ

船出せしより十二年

四、

花咲き花はうつろひて

露おき露のひるがごと

星霜移り人は去り

梶とる舟師は變るとも

我のる舟は常へに

理想の自治に進むなり

五、

行途を拒むものあらば

斬りて捨つるに何かある

破邪の劍を抜き持つて

舳に立ちて我よべば

魍魎魍魎も影ひそめ

金波銀波の海静か

東京第一高等學校記念祭歌

$\frac{4}{4}$	$\underline{3.2}$ $\underline{1.6}$ 1 $\underline{6.6}$	$\underline{5.6}$ $\underline{5.3}$ 5 0	$\underline{3.2}$ $\underline{1.6}$ 1 $\underline{3.3}$
	はる らん まんの	はな のい ろ	むら さき に ほふ
	$\underline{2.2}$ $\underline{1.2}$ 2 0	$\underline{3.2}$ $\underline{1.6}$ 1 $\underline{6.6}$	$\underline{5.6}$ $\underline{5.3}$ 5 0
	くも まよ り	くれ なひ う すき	むさ ひか げ
	$\underline{3.2}$ $\underline{1.6}$ 1 $\underline{3.3}$	$\underline{2.2}$ $\underline{1.2}$ 2 0 3	$\frac{5}{4}$ 5 — $\underline{6.5}$ $\underline{3.2}$ 1
	のど けき ひ かり	さし そへ ば と	り はさ へづり
$\frac{4}{4}$	$\underline{5}$ $\underline{5}$ $\underline{3.2}$ 1	$\underline{2.2}$ $\underline{2.2}$ $\underline{5.5}$ 5	$\underline{1.2}$ $\underline{3.2}$ 1 0
	て ふ は ま ひ	ちり くる はな も	ひかり あ り

全国イ名校歌集

三

東京第一高等學校記念祭歌

- 一、春爛漫の花の色
紅淡き朝日影
鳥は囀り蝶は舞ひ
- 二、秋玲瓏の夕紅葉
血汐の色夕日影
錦榮えある心地して
- 三、それ濁流に魚住まず
勤儉尙武の旗の色
白雲なびく向陵に
- 四、嗚呼衰へぬ東洋の
銀鞍白馬華を街ひ
榮華の夢を貪ほりて
- 五、港は遠く夜はくらぐ
梶の尾絶えたる小舟すら
光に行手を定むなり
- 六、自治の光は常暗の
大和島根の人々の
若し夫れ自治のあらずんば
- 紫句ふ雲間より
長閑けき光さし添へば
散り来る花も光あり
- 山の端近くかぎろへる
岡の紅葉にうつろへば
入相の鐘に暮れて行く
- 秀麗の地に健兒あり
自治共同の笛の聲
籠るも久し十四年
- 二千餘載の君子國
翠袖玉簪美をつくし
文明の華に人酔へり
- さかまく怒濤の太平洋に
遙かに見ゆる明星の
- 國をも照す北斗星
心の梶を定むなり
此の國民を如何にせん

全国有名校歌集

一七

東京第一高等學校全寮々歌

$\frac{4}{4}$	<u>3.3.3</u> <u>4.3.2.1</u> <u>5.5</u> <u>5.6</u> <u>5.0</u> <u>3.5.5</u> <u>6.5</u> <u>4.3</u> <u>2.2</u> <u>2.3</u> <u>2.0</u>	やみのなかなる	ひとすじの	ひかりなりけり	あまつひの
	<u>5.5</u> <u>3.1</u> <u>2.3.2</u> <u>5.5</u> <u>6.1</u> <u>2.0</u> <u>1.1</u> <u>2.6</u> <u>5.5</u> <u>3</u> <u>4.3</u> <u>2.5</u> <u>1.0</u>	むかうがおかに	きりはれて	はなやぎわたる	あさのいろ
	<u>5.5</u> <u>5.5</u> <u>5.5</u> <u>5</u> <u>6.6</u> <u>6.6</u> <u>6.0</u> <u>5.5</u> <u>3.1</u> <u>2.3</u> <u>2.1</u> <u>5.5</u> <u>6.7</u> <u>1.0</u>	こころざしある	せいねんが	にーごりゆくよを	なげきつつ
	<u>2.2</u> <u>2.5</u> <u>3.3</u> <u>2</u> <u>5.3</u> <u>3.1</u> <u>2.0</u> <u>1.1</u> <u>2.6</u> <u>5.5</u> <u>3</u> <u>3.3</u> <u>5.5</u> <u>1.0</u>	みまをとたてし	かしはぎの	はたかぜかほる	きしゆくりよう

全園有名校歌集

元

東京第一高等學校全寮々歌

一、闇の中なる一筋の
光なりけり天津日の
向ヶ岡に霧はれて
花やぎ渡る朝の色
志ある青年が
濁り行く世を嘆きつゝ
操と樹てし柏木の
旗風薫る寄宿寮

二、高き賤しきおしなべて
心は闇か濁江か
塵にも似たる輕薄は
我が世を遂に如何にせん
されば過ち多くして
世の人皆は迷ふとも
我は迷はじ一すじに
踏み行く道は四綱領

全園有名校歌集

元

三、濁れる波を支へんに
 城も櫓もなけれども
 狂へる風を防がんに
 剣も楯もあらざれど
 自ら治むる精神の
 凝り固まれる團結の
 山なす濤も打ち砕く
 巖に似たる力あり

四、かばかり熱き真心の
 底より深く萌え出でし
 自ら治むる心根の
 草の根ざしの深ければ
 幾代の春はめぐるとも
 幾世の風はすさぶとも
 いかで移りかはるべき
 我が岡の邊の自治の華

五、いざや吾伴この草の
 根ざしはあつく培ひて
 あだ波風を防ぎつゝ
 かほりを廣く匂はせて
 頭にかざす柏木の
 ときはかきはに我が寮の
 光を四方に傳へてむ
 譽を世々に傳へてむ

東京第一高等學校野球部歌

$\frac{2}{4}$

<u>5. 5</u> てん	<u>5. 5</u> うの	<u>1. 1</u> せい	1 き	<u>2. 2</u> かう	<u>1. 2</u> りやう	3 に	0
<u>3. 3</u> こし	<u>3. 2</u> りて	<u>1. 2</u> こ	3 に	<u>5. 5</u> じう	<u>5. 3</u> にれ	2 ん	0
<u>1. 2</u> その	<u>3. 2</u> はる	<u>1. 1</u> あき	<u>6. 6</u> にー	<u>5. 5</u> みが	<u>1. 2</u> きこ	3 し	0
5 ぶん	<u>6. 6</u> ぶの	<u>5. 5</u> みち	<u>3. 3</u> はー	<u>3. 2</u> かす	<u>3. 2</u> あれ	1 ど	0
<u>5. 5</u> こー	<u>6. 5</u> とに	<u>1. 2</u> すぐ	<u>3. 3</u> れし	<u>2. 2</u> やき	<u>5. 6</u> うぶ	5 の	0
<u>3. 3</u> ほま	<u>3. 2</u> れは	<u>1. 1</u> よ	1 に	<u>2. 2</u> つき	<u>2. 2</u> ざら	5 ん	0

東京第一高等學校野球部歌

一、
天地の正氣向陵に
籠りて茲に十二年
その春秋に磨き來し
文武の道は數あれど
殊に勝れし野球部の
譽は世々に盡ざらむ

二、
彌生ヶ岡の春の夕
ノックの響雲に入り
向ヶ岡の冬の朝
霜を碎きて球競ふ
雨に嵐に練習の
苦心を積みし年月や

三、風雨いかる校庭に

寄り来る敵は多けれど
鎧の袖の一觸に
物も言はさで追ひ返し
覇者の譽の年々に
上り行くこそ嬉しけれ

四、名も勇ましきケンタツキ

ヨークタウンやデトロイト
風切るバット勇猛の
軍艦勢も力盡き
兜を脱ぎて陣門に
降りし様ぞ哀れなる

五、懸軍十里南濱に

勇み振ひて進み行き
國技に誇るアマチュアの
亞米利加人と戦ひて
物も見事にスコンクの
勝鬨舉げし様を見よ

六、あゝ名譽ある我が部史よ

あゝ光榮ある十年よ
此の武威長く地に墜ちず
いよよ光を打ち添へて
太平洋のかなたまで
吾部のほまれ輝かせ

$\left(\frac{4}{4}\right)$ $\underline{0114406}$ | $\dot{1} \cdot \underline{76503}$ | $5 \cdot \underline{11446}$ | $5 - \underline{503}$ |
 りさうなは ぐぐーむ え うらんーのな ぞ — ー み
 カカヤクシ ンリーノ フ エキノーイロ ソ — — ミ

 $\dot{1} - \dot{1}$ $\underline{\dot{2} \cdot \dot{1}}$ | $5 - \underline{5 \dot{2} \dot{1} 6}$ | $5 \underline{6 \cdot \dot{1} \dot{2} \cdot 6}$ | $\dot{1} - \underline{\cdot 0}$ ||
 ど り みど りーしんじゆ のーーみ ど り
 ド リ ミド リーシンジュ ノーーミ ド ヲ

東京帝大緑會々歌

$\frac{2}{4}$ $\underline{1 \cdot 1}$ $\underline{1 3}$ | $\underline{5 \cdot 5}$ $\underline{5 3}$ | $\underline{1 \cdot 1}$ $\underline{4 6}$ | $\dot{1} \cdot \underline{5 5 0}$ |
 げ う こ う み な ぎ る に つ と う の く に
 コ ク テ ウ メ グ ラ ウ フ サ ウ ノ シ マ ニ

 $\underline{3 \cdot 5}$ $\underline{5 5}$ | $\underline{6 \cdot \dot{1}}$ $\underline{\dot{1} 6}$ | $\underline{5 \cdot 6}$ $\underline{5 3}$ | $\underline{3 2}$ $\underline{2 0}$ |
 こ う よ う や ま ざ る と き よ の さ う な
 ニ ホ ヘ ル チ ウ カ チ ハ ト ウ ニ ノ セ テ

 $\underline{3 \cdot 5}$ $\underline{5 1}$ | $\underline{\dot{1} \cdot 6}$ $\underline{5 3}$ | $\underline{2 \cdot 2}$ $\underline{2 3}$ | $\underline{2 6}$ $\underline{5 0}$ |
 み ち び き ゆ か な む そ う ぞ う い ち ろ
 シ カ イ ニ ウ タ サ ム チ カ ラ フ ナ セ ト

 $\underline{\dot{1} \cdot 6}$ $\underline{5 3}$ | $\underline{6 \cdot 5}$ $\underline{3 2}$ | $\underline{3 \cdot 2}$ $\underline{2 3}$ | $\underline{2 \cdot 1}$ $\underline{1 0}$ |
 い ま し も わ れ ら が お ほ き し め い な
 イ マ シ モ ヲ レ フ ガ キ ヲ キ ノ ソ ミ ニ

 $\left(\frac{4}{4}\right)$ $\underline{0114406}$ | $\dot{1} \cdot \underline{76503}$ | $5 \cdot \underline{11446}$ | $\left(\frac{2}{4}\right)$ $5 - \underline{\quad}$ |
 ゆくてにと げむーと つ どひてーここ に
 ミソラニカ カケール ホ ウガクーノキ シ

東京帝大緑會々歌

一、曙光みなぎる日東の國

浩漾息まさる時世の相を

導き行かなむ創造一路

今しも我等が大き使命を

前途に遂けむと集ひてこゝに

理想を育む搖籃の名ぞ

みどりみどり新樹の緑

二、黒潮環らふ扶桑の洲に

匂へる櫻花を波濤に載せて

四海に搏たさむ力を成せと

今しも我等が聖き希望に

み空に掲ぐる法學の旗幟

輝く眞理の不易の彩ぞ

みどりみどり新樹の緑

明治大學校歌

4/4

5 | 1 2 3 4 | 6 5 5 — 1. 2 | 3 5 i 6 | 5 — . 3. 2 |
 し ら く も な び く — す — る — が だ い ま —

i i i 6 | i 5 5 — 3. 5 | i 6 5 3 | 2 — . 5 2 | i — . 3 4 |
 ゆ ひ い で た る — わ — か — う ど が つ く や じ た

5 — 5 3 4 | 5 6 i 5 6 | i — . 3. 2 | i 5 5 6 | 5 3 3 — 1. 2 |
 い の あ — け — の — か れ ぶ ん か の う し ほ — — み

3 5 i 6 | 5 — . i i | 6 — 5 i 7 | 6 — 5 5 6 | 5 3 4 5 6 |
 ち — び き て と — げ し い し ん の は — え — — にな

5 i 5 3. 2 | i — . i. 2 | i — 6 6 5 | 5 3 4 5 6 | 5 i 5 3. 2 |
 ふ — — め い ち そ の な ぞ わ れ ら — が ぼ こ う — — め い

i — . 1 i | i — 5 6 5 | 5 3 1 3 2 | 1 — . ||
 ち そ の な ぞ わ れ ら — が ぼ こ う

全國有名校歌集

10

明治大學校歌

一、白雲なびく駿河臺
 撞くや時代の曉の鐘
 送けし維新の榮になふ
 明治、其の名ぞ吾等が母校
 明治、其の名ぞ吾等が母校

眉秀でたる若人が
 文化の潮導きて

二、權利自由の搖籃の
 強き光に輝きて
 高き理想の道を行く
 吾等が健兒の意氣をば知るや
 吾等が健兒の意氣をば知るや

歴史は古く今も尙
 獨立自治の旗翳し

三、靈峰不二を仰ぎつゝ
 吾等に燃ゆる希望あり
 時代の夢を破る可し
 正義の鐘を打ちてならさむ
 正義の鐘を打ちてならさむ

刻苦研鑽他念なき
 いでや東亞の一角に

全國有名校歌集

11

中央大學校歌

4/4

5.1 | 3 0 3 3 1 3 5 | i - 5 0 3 . 4 | 5 5 6 i | 5 - 0 3 4 |
 みく に の --- い し づ え か た め ん た め と ち ゆ う

5 3 4 6 | 5 i i - i . 6 | 5 3 3 2 | 1 - 0 1 1 1 |
 お う の な に --- つ ど へ る げ ん じ し ゆ ん じ ゆ

4 0 4 6 i | 5 - 0 3 4 | 5 5 6 i 6 | 5 - 0 3 5 |
 う か わ ら ぬ ふ よ う の ゆ - き は と -

i . i 2 . i | i - 5 5 i | 5 3 1 2 3 2 | 1 - 0 ||
 ほ く わ れ ら の こ こ ろ - な - て ら す

全國有名校歌集

四

中央大學校歌

- 一、皇國の礎固めん爲めと
 中央の名に集へる健兒
 春秋變らぬ芙蓉の雪は
 遠く吾等の心を照す
- 二、質實剛健撓まず倦まず
 心をあはせて養ひ來る
 貴き校風仰ぎて知れと
 空に聳ゆる吾等が校舎
- 三、世界の進みに魁すべく
 心を鍛へ身を鍛へんと
 集り來れる健兒の爲めに
 前途を祝はん諸聲高く

全國有名校歌集

四

日本大學應援歌

4/4

<u>5. 5</u>	<u>5. 5</u>	<u>3. 3</u>	<u>5. 5</u>	<u>6. 6</u>	<u>6. 6</u>	5	0
ぐわ	しん-	しやう	たん	いく	たび	か	
<u>3. 3</u>	<u>3. 3</u>	<u>5. 5</u>	<u>3. 1</u>	<u>2. 2</u>	<u>2. 2</u>	5	0
とし	な-	かさ	ねて	けふ	ここ	に	
5	<u>6. 7</u>	<u>1. 1</u>	<u>1. 1</u>	<u>2. 2</u>	<u>3. 6</u>	<u>5. 5</u>	5
しん	こう	きえ	いの	にち	だい	せん	しゆ
<u>1. 1</u>	<u>2. 3</u>	<u>6. 6</u>	<u>6. 6</u>	<u>5. 5</u>	<u>5. 5</u>	1	0
てつ	わん	ふる	ふは	この	とき	ぞ	

日本大學應援歌

- 一、ぐわしんしやうたんいくたび
臥薪嘗膽幾度か
年を重ねて今日此處に
新興氣鋭の日大選手
鐵腕振ふは此の秋ぞ
 - 二、みま
見よ墨堤にたなびける
我等がピンクの旗印
新興氣鋭の日大選手
鐵腕振ふは此の秋ぞ
 - 三、あゝ
あゝ戦は今なるぞ
霸權を握るは今日なるぞ
新興氣鋭の日大選手
鐵腕振ふは此の秋ぞ
- ラ、フレール、フレール
フレフレ 日大

法政大學校歌

4/4

5 1.2 3 3 | 5.#4 5.6 53 | 1.2 3.2 1 6 | 5 6.#4 5 0 |
 お ほー りに かげうつして いやたへにも はなさく

5 5 2. 2 | 2.#1 2.3 2 5 | 3.2 1 6 5 4 | 3 2.7 1 — |
 お かの さ くらながめて わがたましひ こえあぐ

6. 6 66 66 | 6 6 6 6 | 5. 5 55 55 | 5. 4 3 — |
 ひのいづるところより ひのいるところまで

6 6. 6 66 | 6 — 6 — | 5 5. 5 6 7 | i — i — ||
 なおほいなれ ほうせい なおほいなれ ほうせい

全国有名校歌集

四

法政大學校歌

一、御堀に影うつして
 岡の櫻眺めて
 日の出づるところより
 夕大いなれ法政

二、千代田の城めぐりて
 緑の松仰ぎて
 日の出づるところより
 名大いなれ法政

三、世のため命捨て、
 やすくにびとおもひて
 日の出づるところより
 名大いなれ法政

四、朝の光うけて
 眞白の富士望みて
 日の出づるところより
 名大いなれ法政

い や た へ に も 花 咲 く
 吾 が 魂 聲 揚 ぐ
 日 の 入 る と ころ まで

い や 繁 く も の び ゆ く
 吾 が 魂 聲 揚 ぐ
 日 の 入 る と ころ まで

い や 長 く も い き ゆ く
 吾 が 魂 聲 揚 ぐ
 日 の 入 る と ころ まで

い や し る く も か ど や く
 吾 が 魂 聲 揚 ぐ
 日 の 入 る と ころ まで

全国有名校歌集

七

立教大學校歌

全國有名校歌集

4/4

5. 5. | 5. 5. 6. 5. | 5. 4. 3. 5. | 1. 1. 2. 1.2 | 3. — 0 3. |
 ふ よ の た か れ を く も め に のぞ み む

5. 4. 3. 3. | 6. 6. 5. 5. | 5. 3. 1. 7.1 | 3. — 2. 5. |
 ら さ き に ほ へ る む さ し の は ら に い

4. 2. 3. 1. | 2. 7. 1. 1.7. | 6. 6. 6. 7. | 7. — 5. 4. |
 か し く そ ば た つ わ れ ら が ほ か う み

3. 3.2. 1. 3. | 6. — . 0. | 3. 5.4. 3. 2.3. | 1. — . 0. ||
 よ み り つ き ょ う じ ー の が く ふ

四

立教大學校歌

- 一、芙蓉の高根を 雲井にのぞみ
 紫匂へる 武蔵野の原に
 いかしくそばたつ 吾等が母校
 見よ 立教 自由の學府
- 二、愛の魂 正義の心
 朝に夕に きたへつ、ねりつ
 ほうかにさゝぐる 吾等が母校
 見よ 立教 自由の學府
- 三、ほしふるいくたび でんとううけつ
 東西文化のすいびを こらし
 榮光輝く 吾等が母校
 見よ 立教 自由の學府

全國有名校歌集

四

東京商科大学校歌

$\frac{2}{4}$

1. 1 1. 2 | 3. 2 1. 3 | 5. 5 5. 6 | 5 6 | 1̇. 1̇ 5. 5 |
 れい ろう たー かき せん れい の せん しう

3. 3 6. 6 | 5. 4 5. 6 | 5 0 | 1. 1 1. 2 | 3. 2 1. 2 |
 のー けき かけ きよ く びよう ぼう ひー ろき

5. 5 5. 6 | 5 0 | 1̇. 1̇ 5. 5 | 3. 2 1 | 2. 2 2. 2 |
 たい えい の ばん この なが れ いる ふか

2 0 | 3. 5 5. 5 | 6. 2 2. 2 | 3. 5 5. 6 | 5 0 |
 し ああ せい だい のー きー こり て

1̇. 1̇ 5. 5 | 3. 2 1 | 6. 1 3. 2 | 1 0 ||
 うる はし きか な あき つし ま

全国有名校歌集

三〇

東京商科大学校歌

一、
 玲瓏高き仙嶺の
 千秋の雪影きよく
 渺茫ひろき大瀛の
 萬古の流色ふかし
 あゝ正大の氣凝りて
 美はしきかな秋津洲

二、
 其の雄麗の影涵し
 此の秀麗の色うけて
 煙波みなぎる三千里
 海路の果は遠くとも
 波の行方は我が船の
 旗翻へす地ならずや

全国有名校歌集

三二

三、萬里を翔くる 曉の

風南清の野に荒れて
朝日かゞやく揚子江
江上の浪躍るとき
翻へる我が商船の
日章旗など勇ましき

四、千里に亘る夕暮の

雲北米の山を罩め
夕日まばゆき金門に
紅蓮の色が浮ぶ時
翻へる我が商船の
日章旗など美はしき

五、釋迦を出し、海南の

印度の未路今如何に
孔孟立ちて道説きし
中華四億の民如何に
法燈うすれ聖教の
道長へに空しきか

六、アリアンの族ならずんば

クリスト教徒ならずんば
二十世紀の文明を
語るを得じと誰か云ふ
見よ向上の旗あけし
秀麗の國秋津洲

東京商大ボート応援歌

4/4

1 11 1 13 | 5 64 50 | 4.44432 | 5.555 50 | $\dot{1}$ - 7.7 |
 とよとのながれ せんねんの すみだをきもれ ひとつはし かいその

6 64 50 | 4. 3 2 22 | 1.123 4456 | $\dot{1}$. $\dot{1}$ 3.3 | 2 2 7 $\dot{1}0$ |
 たかき なををしむ こひやくのをのこが ひとたび たにーは

3.3 34 5 56 | 3.33.210 | 5 $\dot{1}$ 5 $\dot{1}$ | 5 $\dot{1}$ 5 $\dot{1}$ $\dot{1}0$ | 3 6 3 6 |
 とどめんてがら あるべしや ひとつはしひとつはし いぎよるへ ひとつはしひとつはし

5.65.35.56 $\dot{1}$ | 5 $\dot{1}$ 5 $\dot{1}$ | 5 $\dot{1}$ 53 $\dot{1}0$ | $\dot{1}\dot{1}\dot{1}6554$ | 3.3 2210 ||
 いぎフレフレフレ ひとつはしひとつはし いぎよるへ すみだはとほに わがものぞ

全国有名校歌集

三

東京商大ボート応援歌

東都の流れ千年の

隅田を守れ一橋

あゝ其の高き名を惜む

五百の男児が一度起たば

止めん力あるべしや

一橋々々イザ奮へ

一橋々々イザフレ〜〜

一橋々々イザ奮へ

隅田は永久に我が物ぞ

全国有名校歌集

三

東京商大根川遠漕歌

4/4

0.3 5. 3 | 5. 6 1. 1 6. 1 5. 5 | 6 0. 1 1. 1 3. 5 |

ひ とつ でたわいなよさほいの ほい ひ とつ ばし

3. 1 2. 1 5. 5 6 | 0. 1 2. 1 2. 2 5. 5 | 6. 5 3. 2 1 5 | 5 0 ||

だよよくみやれ あかの はた ちに マーキユリイホイ ホイ

東京商大根川遠漕歌

- 一、一つ出たわいなヨサホイのホイ
一橋だよよく見やれホイ
赤の旗地にマーキユリホイホイノ、
- 二、二つ出たわいなヨサホイのホイ
舟は出て行く藏前をホイ
呼ぶは波間の都鳥ホイノ、
- 三、三つ出たわいなヨサホイのホイ
未練残して隅田川ホイ
何時か運河の舟の中ホイノ、

四、四つ出たわいなヨサホイのホイ

寄るか寄るまいか行徳へホイ

橋が見えます市川のホイく

五、五つ出たわいなヨサホイのホイ

一氣力漕千本でホイ

乗り切らうかい國府臺ホイく

六、六つ出たわいなヨサホイのホイ

むせぶ松戸の朝風にホイ

黒い腕が十二本ホイく

七、七つ出たわいなヨサホイのホイ

流れ止めよか男ならホイ

こゝは味淋の流山ホイく

八、八つ出たわいなヨサホイのホイ

山は筑波で川は利根ホイ

漕ぐは商大ボートメンホイく

九、九つ出たわいなヨサホイのホイ

心亂るゝ寶山やホイ

偲べ朱雀の漕難をホイく

十、十と出たわいなヨサホイのホイ

遠い舟路をつゝがなくホイ

今宵大新呑みあかすホイく

東京商大豫科の歌

$\frac{2}{4}$

<u>1. 3</u> きみ	<u>5. 5</u> よー		<u>6. 6</u> しれ	<u>5. 5</u> りや		<u>3. 5</u> ひん	<u>6. 1̇</u> がし		<u>2̇.</u> の	<u>0</u>	
<u>1̇. 1̇</u> くろ	<u>6. 1̇</u> しほ		<u>3. 6</u> めぐ	<u>5</u> る		<u>3. 3</u> しま	<u>2. 5</u> がれ		<u>5.</u> は	<u>0</u>	
<u>6. 6</u> なか	<u>5. 6</u> とこ		<u>1̇. 6</u> とほ	<u>5</u> に		<u>3. 3</u> あほ	<u>2. 1</u> くし		<u>2.</u> て	<u>0</u>	
<u>3. 3</u> のに	<u>1. 2</u> さん		<u>3. 5</u> しゆん	<u>6</u> の		<u>5. 6</u> うた	<u>2̇. 1̇</u> たか		<u>1̇.</u> く	<u>0</u>	
<u>2̇. 2̇</u> うら	<u>1̇. 3̇</u> わか		<u>2̇. 1̇</u> きこ	<u>6</u> の		<u>5. 3</u> すむ	<u>3. 2</u> ここ		<u>1.</u> る	<u>0</u>	

東京商大豫科の歌

一、君よ知れりや東の

黒潮めぐる島ヶ根は

丘とことには青くして

野に讚春の歌高く

うらわきか子の住む處

二、ふりさけ見れば碧萬里

橄欖かほる南歐に

傳説ある城荒れて

いたましいかな高樓に

歡樂の聲は絶えにけり

三、またはラインの水暗く
 岸邊の小草血ぬれては
 雨肅條の音もほそく
 怨はながしゲルマンの
 雄圖も今は空くて

四、タクラマガンの大沙漠
 當て湖北の驕兒が
 夕陽に面を染めにつゝ
 貔貅つらねて廻りけん
 豪懷の跡まほろしか

五、興亡すべて一篇の
 あやなす詩にも似たる哉
 あはれうましき東の
 しのよめ榮ゆる島の野に
 昌平久し二千年

六、されどさかしき若人に
 あふるゝ血潮あるものを
 あゝ何時までの太平ぞ
 暴風よ雨よ吹き荒べ
 この乾坤も裂くるがに

七、叡智と野望しるすなる
 黄金まぶし神杖を
 かざしの楯に彫りこめて
 起たば暗明はらふべく
 しばし曠野に苦をなめん

八、島は緑蕪の地に下る
 石神井原の夕まぐれ
 梨死に花の白きとき
 一盞春をかなしめば
 湧くは三歳の奢り歌

東洋大學々歌

4/4

5 | 3 4 5 1.5 | 5. 6 5 5 | **ff** | **i 6 i 5** |
あ じ あ の たー ま し ひ ふ た た び こ
ア ヅ ア ノ アー メ ツ ナ ア カ ツ キ ア

i2 3 — 0 | **mf** 03 43 3 47 | **i i 4 0 4** |
こー に め ざ め し よー ろ こ び あ
ケー テ ジ ャ ン ギ ト シー ヒ ト ノ マ

3. 2 i 0 6 | **f** **i i 0 6** | **i. 5 5 6 i** |
ふ れ て ひ と に な を し く あー
コ ト ノ ヒ カ ヲ イ マ コ リ カー

32 i 4 05 | **6 6 i 2 3** | **i — 0 i** |
げー た り と きー の こ え と
ガー ヤ ケ ニ シー ノ ワ ミ ト

i. i i 3 | **3 5 6 —** | **05 6i 23 2** |
う よ う だ い が く う ま れ の
ウ ヲ ウ ダ イ ガ ク ツ ト メ ハ

23 2 2 6 3 2 | **i — .** ||
かく て
オモ シ

東洋大學々歌

- 一、あじあの魂再び茲に
醒めし喜び溢れて人に
男々しく挙げたりときの聲
東洋大學生れぬかくて
- 二、あじあの天地曉明けて
仁義と慈悲との誠の光
今こそ輝け西の海
東洋大學つとめは重し
- 三、命に秘めたる教へを開き
あけて變らぬ御國の姿をまし
おうがに伏せむ四方外國
東洋大學榮えよ永遠に

國學院大學校歌

4/4

0 5 1 2 3 4 | 5 — 2 3 2 | 1 7 6 5 6 3 | 5 — 0 |
 ミ ハ ル カ ス モ ノ ミ ナ キ ャーラナ ル
 と つ く に ぐ に の な が き ー な と リ て
 マ ナ ビ ノ チ マ タ ソ ノ ヤ チ マ タ ニ

0 3 5 6 7 1 | 3 — 5 1 2 | 3. 1 1 2 | 1 — 0 |
 シ ア ヤ ノ チ カ ニ ダ イ ガ ク タ テ ヲ
 わ が み じ か き ー な お ぎ な ふ よ に も
 コ ク ガ ク キ ン ノ セ ン ゲ ン タ カ ク

2. 2 2 2 | 2 4 3 2 2 | 3. 3 3 5 | 5.5 2 — |
 イ ニ シ エ イ マ ノ フ ミ ノ キ ラ メ テ
 い か で ー わ す ー れ ん も と つ な し へ は
 ソ セ ン ノ ミ ー チ ハ ミ ヨ コ コ ニ ア リ

0 5 1 2 3 4 | 5 — 2 4 5 | 4 3 2 1 2 5 | 1 — 0 ||
 ク ニ ノ モ ト # チ キ ハ ム ル ト コ ロ
 い よ よ み が か ー ん も と つ こ ー こ ろ は
 シ ソ ン ノ ミ チ ハ ミ ヨ コ コ ニ ア リ

全國有名校歌集

六

國學院大學校歌

一、見はるかすもの皆清らなる

澁谷の丘に大學たてり

いにしへ今の文明らめて

國の基を究むるところ

二、外つ國國の長きをとりて

わが短きを補ふ世にも

いかで忘れんもとつ教は

いよよ磨かんもとつ心は

三、學びの巷そのやちまたに

國學院の宣言高く

祖先の道は見よこゝにあり

子孫の道は見よこゝに

全國有名校歌集

六

駒澤大學自治の歌

4/4

<u>3.3</u> <u>1.3</u> <u>5.5</u> <u>5.5</u> <u>1.1</u> <u>5.6</u> 5 — <u>3.3</u> <u>5.6</u> <u>5.5</u> <u>4.3</u>
みやこのそらの— うづまきを ほくとうぐうに—
<u>2.2</u> <u>3.5</u> 2 — <u>1.2</u> <u>3.3</u> <u>2.1</u> <u>5.5</u> <u>3.3</u> <u>5.6</u> 5 —
ながめつつ にしはるばると せんざいの
<u>1.1</u> <u>2.3</u> <u>2.2</u> <u>5.5</u> <u>3.3</u> <u>2.1</u> 1 — <u>1.1</u> <u>5.5</u> <u>3.3</u> <u>2.2</u>
ふ—じのはくせつ あふぎつつ たけの—なみうつ
<u>1.1</u> <u>2.3</u> 5 — <u>6.6</u> <u>5.5</u> <u>3.5</u> <u>1.1</u> <u>2.2</u> <u>2.2</u> 1
こまざわの そらに—そびゆる まなびやよ

駒澤大學自治の歌

- 一、都みやこの空そらのうづまきを
西にしはるくくと千載せんざいの
竹たけの波なみ打うつ駒澤こまざわの
 - 二、春はる籜たけぐさ亂らんの花はな吹ふ雪ゆき
自治じちの精神せいしん意いにしめて
朝あしたに不ふ壤らうの身みを鍛たへ
 - 三、指ゆびかゞなへば百餘年ひゃくじゆねん
梅うめ檀たん林りんの昔むかしより
人ひとの長なが敬けいを集あつめ來きし
 - 四、隙ひま駒こま一ひと度たび歩あゆみをば
思想しきうの亂みだれ譬たとふれば
慈悲じいの教しゆへ地ちを拂はらひ
 - 五、あゝ世よは正ただに常とこ闇やみよ
握にぎれ左ひだり手てに破やぶ邪よこしまの劍けん
旗はた鼓こ堂どう々々とたじろがす
-
- 北きた東とう隅ぐうに眺ながめつつ
富ふ士しの白はく雪せつ仰あやぎつつ
空そらにそびゆる學がく舎しゃよ
 - 秋あき肅しゆ條じょうの夜よ半はんの雨あめ
得えこそ忘わすれぬ健けん男おとこ兒が
夕ゆふに心こころのかゞみ研とく
 - 彌や生せいヶ丘かきに茂しげりたる
文ぶん化くわの潮しほの源みなもとと
 - ほこりの跡あとを見みよや見みよ
おごりの國くにに人ひとりしより
おどろの山やまか濁にご流りゅうか
 - 正義せいぎの光ひかり影かげもなし
我われ等らが立たたん時ときは今いま
右みぎ手て顯けん正せいの舟ふねの權けん
道みちを呼よん案あん内ないして

東京高等工業學校々歌

$\frac{3}{4}$

<u>5.5</u> さき	1 1 には	<u>1.2</u> 3 1 すみ だの	<u>2.2</u> 5 4 なが れの	<u>3.3</u> 2 0 きし に
<u>3.3</u> いま	3 2 はた	<u>1.1</u> 1 4 ひぶ すま	<u>3.2</u> 1 6 おほ おか	<u>2.2</u> 2 0 やま に
<u>4.4</u> とう	4 4 きやう	<u>2.2</u> 2 2 かう とう	<u>1.1</u> 2 2 こふ げふ	<u>1.^b7</u> 6 0 が く かう
^b <u>7.7</u> ほま	<u>6.5</u> れの	<u>6.2</u> 1 1 れき した	<u>2.2</u> 2 3 のぞ みの	4.3 2 み ら い
<u>3.3</u> つと	2 1 めよ	<u>4.4</u> 3 2 いく せん	3 5. 0 ああ	5 6. 5 ああ -
<u>4 3</u> わが	<u>2.1</u> けん	1 — 0 じ		

全国有名校歌集

七〇

東京高等工業學校々歌

- 一、先には墨田の流の岸し
今はた碑衾大岡山に
東京高等工業學校
ほまれの歴史と望の未來！
つとめよ幾千あゝわが健兒
- 二、亞細亞の光とかげやく日本
東亞の一隅波みな捲けば
國是は畢竟工業重し
祖先の教よ子孫の幸よ
つとめよ幾千あゝわが健兒
- 三、形と色とに巧を示す
文化の精粹その根は心
誠の一徳 基をなさん
祖國の榮と世界の利との！
つとめよ幾千あゝわが健兒！

全国有名校歌集

七二

東京高等師範桐花寮歌

2/4 mf

あ した に ひ び く せい しん の か れ

ふ べ に お こ る だん ら く の こ え

こ の え いくわ う こ こ よ り お こ り

み ら い の か う げ う こ こ よ り た た ん

(4/4) か た き ち か ひ う た へ と う ぐ わ り よ う

た て よ ふ る へ い ざ ふ れ ふ れ ふ れ

全国有名校歌集

111

東京高等師範桐花寮歌

一、 晨に響く精進の鐘
夕に起る團樂の聲
過沾の榮光此處より起り
未來の鴻業此處より健たむ
堅き誓ひ 謳へ 桐花寮
起て奮へ いざフレイ フレイ

二、 荒ぶ世相を既倒に返し
化育の旌旗押し樹て進む
蓋世の先覺此處より起り
君子の龜鑑此處より立たむ
高き理想 謳へ 桐花寮
起て、奮へ、いざフレイ フレイ

三、 見よや占春落花の雪
かすむ堂々六つの寮舎
開けや茗溪萬里の月に
照らす同胞故人の心
永き榮え 謳へ 桐花寮
起て、奮へ、いざフレイ ノー

全国有名校歌集

112

日本歯科醫學専門學校々歌

2/4

5 ||: $\dot{1}$ $\underline{5.3}$ | $\underline{1.1}$ $\underline{7.1}$ | $\underline{2.2}$ $\underline{3.4}$ | 3. 3 | 2 3 $\sharp 4$ |
 お ほぞら なが るる あか つき の か れ の ひ

$\underline{5.6}$ $\underline{7.7}$ | $\underline{\dot{1}.7}$ $\underline{6.7}$ | $\underline{6}$ $\underline{5.0}$ | $\underline{5.5}$ $\sharp 4.5$ | $\flat 6.5$ $\flat 4.3$ |
 びき にあ けー そむ る - ふー よう はつ だの

$\underline{2.2}$ $\underline{1.7}$ | 5. . 5 | 5 $\underline{6.7}$ | $\underline{\dot{1}.1}$ $\underline{5.3}$ | $\underline{4.4}$ $\underline{3.2}$ |
 すが たこ そ わ れ らが ぼか うの まも りな

$\underline{2}$ $\underline{1}$ | $\underline{5.5}$ $\underline{6.7}$ | $\underline{1.2}$ $\underline{3.3}$ | $\underline{4.3}$ $\underline{2.1}$ | 5. 5 |
 れ - ちは よし くだ んふ じー みは ら な

5 $\underline{6.5}$ | $\underline{5.5}$ 5 | $\underline{5.5}$ $\underline{6.7}$ | $\overset{1}{2}$ $\overset{1}{\dot{1}5}$:|| $\overset{2}{2}$ $\overset{2}{\dot{1}}$ ||
 は よし にほ ん しか いせ ん - ん -

全国有名校歌集

七

日本歯科醫學専門學校々歌

- 一、 大空流るゝ曉の
芙蓉八朶のすがたこそ
地はよし九段富士見原
鐘の響に明け初むる
吾等が母校の守なれ
名はよし日本歯科醫學
- 二、 いのちの征矢を手握りて
六千民の國民が
地はよし九段の富士原
弓や張らむ東方の
齒をかたむ男子われ
名はよし日本歯科醫學
- 三、 高鳴る新潮香をのせて
ふるひ立つべき同胞の
地はよし九段富士見原
岸打つ文化の波頭
甘幸もたらす男子われ
名はよし日本歯科醫學
- 四、 今さし出づる朝日子の
照りそふ眞紅の光こそ
地はよし九段富士見原
平和と愛のかゞやきに
我等が母校の使命なれ
名はよし日本歯科醫學

全国有名校歌集

七

日本女子大學櫻楓會々歌

4/4

5	1. 2	7 5	5. 3 1 2 3	4 3 2 6 5 4	3 — 0 5
わ	ざ	は さ	ま さ ま こ	と — は — ち —	ち ぶ
1. 2	7 5	5. 3 1 2 3	4. 3 2 1 7 6	5 — 0 5	
み ゆ く み	ち — は こ	と — な — れ —	ど め		
5. 3	1 6	6. 4 2 2 3	4. 3 4 6 5 4	3 — 0 5	
ざ — す た	か れ は た	だ — ひ — と —	つ み		
1. 1	7 6	5 7 6 5 5	5 4 5 7. 6	5 — 0 5	
く — に の	は な — と ひ	と — さ か	り さ		
1. 2	7 5	5. 3 1 2 4	4. 3 2 6 5 7	1 — 0	
き ち る わ	れ ら が こ	こ — る — に —	て		

全國有名校歌集

六

日本女子大學櫻楓會々歌

- 一、 わざは様々事は千々
めざす高嶺はたゞ一つ
咲き散る我等が心にて
 - 二、 こゝろしき岩根いばら路
嵐の秋の紅葉ばの
錦を常の心にて
 - 三、 我が行く處ふむ處
世のうき風うき雲の
迷ふべきかはもろ共に
 - 四、 めざす高嶺は遠くとも
いざ鞭あけて勇ましく
進みて倒れて止まむ迄
 - 五、 咲かばや花と美しく
盡して世のため人の爲
いざ勇しき人々よ
-
- ふみ行く道はことなれど
御國の花とひとさかり
 - 踏みてにじりて進まばや
あかき心は一入の
 - みちびく望みの光あり
よし如何許りつらくとも
 - 赤き心の駒はあり
いづこ迄もと進まばや
 - 散らばや清く紅葉ばと
いざむつまじく此の園樂

全國有名校歌集

七

磨^いかずば玉^{たま}も鏡^{かがみ}もなにかせむ
 學^{まなび}の道^{みち}もかくこそありけれ

東京女子高等師範校歌

東京女子高等師範校歌

$\frac{4}{4}$

5 — 5 3		1 — 2 0		3 — 5 6		5 5 3 2	
み が か		す ば		た ま も		か が み も	
1 1 2 2		3 — . 0		i i i 6		6 — 5 3	
な に か せ		む		ま な び の		み ち も	
2 2 3 5		6 — 5 3		2 — 3 2		1 — . 0	
か く こ そ		あ り -		け - - -		れ	

大倉高等商業學校應援歌

4/4

5 | 1. 2 3 5 | 1. 6 5-3 | 3 4 5 3 3 1 | 2 — 0 5 |
 あ さ ひ に に ほ-ふ こ み-ど-り- の あ

1. 2 3 5 | 6. 1 1 — 2. 1 | 7 6. 5 6 2 | 5 — 0 5 |
 ほ ひ が お か-に お- ひ - たち し ち

6. 6 6 6 7 | 1 — 5 5 | 6. 7 7 6 | 5 — 0 1 |
 し ほ た か- な る お ほ - く ら の を

6. 5 5 3 | 3. 2 1 2 | 3 5 6. 7 2 | 1 — 0 ||
 の こ の ひ か - り き み-み-す や

全國有名校歌集

20

大倉高等商業學校應援歌

- 一、朝日に匂ふ濃緑の
 葵が岡に生立ちし
 血潮高鳴る大倉の
 男兒の光君見すや
- 二、世界に揚げん功積の
 標の旗をいや高く
 東亞の空に打翳し
 先驅け立たん我等ぞや
- 三、勝利の臍を固めつゝ
 百鍊鐵と鍛へてし
 手練示さん時ぞ今
 奮へ榮ある我が選手

全國有名校歌集

21

2.3 5 | 5.6 i | i 6 | 5.3 5 | 5 0 |
 さや か にひ か れる きた な -
5.5 5.5 | 5 0 | 6.5 3.2 | 1.3 5.5 | 3.3 2.3 | 1 0 ||
 ひと のよ の きー よき くに ぞと あこ がれ ぬ

北海道帝大惠迪寮歌

$\frac{2}{4}$ 1. 3 | 5.5 6.5 | 3.3 1.3 | 5.5 5.6 | 5.0 1.3 |
 み や こぞ やよ ひの くも むら さき に はな
5.5 6.5 | 3.3 2.1 | 4.3 2.1 | 1 0 | 6.6 6.6 |
 のか ただ よふ うた げの むし ろ つき せぬ
i.i i.i | 2.i 6.5 | 3.5 5.0 | 6.6 6.6 | i.i 6.5 |
 おご りに こき くれ ない の その はる くれ ては
6.5 3.1 | 2.3 1.0 | 0 1.3 | 5 5 | 6.i i |
 うつ うふ いろ の ゆめ こそ ひと と
i 0 | 0 2.i | 6 5 | 3.5 5 | 5 0 |
 き あな きし げみ に -
 0 1.3 | 5 5 | 6.i i | i 0 | 0 6.5 |
 もえ なん わが む れ おも
 3 1 | 2.3 1 | 1 0 | 0 1.1 | 1 1 |
 ひ な のせ て - ほし か げ

北海道帝大惠迪寮歌

一、都ぞ彌生の雲 紫に

盡きせぬ春に濃き紅や
夢こそ一時青き繁みに
星影冴かに光れる北を
清き國ぞとあこがれぬ

花の香漂ふ宴遊の筵
その春暮れては移るふ色の
燃えなん我胸想を載せて
人の世の

二、豊かに稔れる石狩の野に

羊群聲なく牧舎に歸り
雄々しく聳ゆる楡の梢
さやめく葦に久遠の光
北極星を仰ぐかな

雁はるく沈みてゆけば
手稻の嶺 黄昏こめぬ
打振る野分に破壊の葉音の
おこそかに

三、寒月懸れる針葉樹林

野もせに亂るゝ清白の雪
あゝその朔風颯々として
あゝその蒼空梢聯ねて
壯麗の地をこゝに見よ

橋の音氷りて物皆寒く
沈黙の曉霏々として舞ふ
荒る吹雪の逆まくを見よ
樹氷咲く

四、牧場の若草陽炎燃えて

雲ゆく雲雀に延齡草の
今こそ溢れぬ清和の光
美しくからずや咲く水芭蕉
この北の國幸多し

森には桂の新緑萌し
眞白の朝影さゆらぎて立つ
小河の邊をさまよひ行けば
春の日の

五、朝雲流れて金色に照り

連なる山脈玲瓏として
自然の藝術を懐みつゝ
貴とき野心の訓へ培ひ
我等が寮を誇らずや

平原果てなき東の際
今しも輝く紺紫の雪に
高鳴る血潮の進りもて
榮え行く

京城帝國大學豫科校歌

4/4

<i>f</i> 5. 5	i-5 3.3	6-5 1.2	3.5 6.5	5-5.5
こんが	べきた	きはるほつ	かにつるかんそと	まふこまのひかえかん
i-5 3.3	6-5 1.2	3.5 3.2	<i>mf</i> 1-. 2.2	
りはあま	ねきみや	このひが	しちと	
こ うよう	よ うひろ	のをあ	ふ けた	
2. 3 2 3.5	5. 6 5 6.i	i. 2 i 6	<i>f</i> 5-. 6.5	
せ-のまつ	か-げつど	へるわれ	らむね	
か-きみさ	な-とくを	んのおも	ひかが	
3. 2 1 2.3	5. 6 5 i.i	6. 5 3 1.3	5-. <i>f</i> 5.5	
ぬ-ちたぎ	る-はしん	くのちし-	ほあふ	
や-くしめ	い-にしん	せいひら-	く たふ	
i-5 3.3	6-5 1.2	3. 5 3 2	1-.	
るるいき	こそたふ	ときたか	ら	
と きせめ	こそわれ	らのつと	め	

全國有名校歌集

六

京城帝國大學豫科校歌

- 一、紺碧はるかに鶴舞ふ高麗野
光はあまねき都の東
千歳の松蔭つどへる我等
胸ぬちたぎるは眞紅の血潮
あふるゝ意氣こそ尊き寶
- 二、岷々たる北漢背面に聳え
漢江洋々廣野を灌ふ
け高き氣節と久遠の理想
輝く使命に新生拓く
貴き責こそ我等のつとめ
- 三、至誠を捧ぐる五つの綱領
協同和親の歩武打揃へ
剛毅にふみゆく眞理の大路
棒の三つ葉の大旗かざし
高叫く歌こそみ空にひびけ

全國有名校歌集

七

浦和高等學校應援歌

4/4

5. 5 | 5 — 0 6.5 | i — 0 i.i | 2̇ — 0 2̇.i |
 す す め うら わ ばく しん うら

3̇ — 0 i | 3̇ — 3̇ 2̇ | i. 6 i 6 | 5.6 i 6.i |
 わ み よ わが せんしゆは わ—か—

5 — 0 | 6.6 5.3 5.6 5.5 | 5.5 i.i 5 2̇.2 |
 し わか きた まも れよ わが うら わ えい

3̇ 2̇.2̇ 3̇ 2̇.2̇ | 3̇. 2̇ i 0 6 | i i.6 5 2̇ | i—0 ||
 くわん えい くわん えい くわん は わ れらがつじや う

全國有名校歌集

六

浦和高等學校應援歌

- 一、進め浦和奮進浦和
若きを守れよ我浦和
榮冠は我等が頭上
見よ我が選手は若し
榮冠榮冠
- 二、奮へ浦和奮闘浦和
強きを歌はん我浦和
榮冠は我等が頭上
見よ我が選手は強し
榮冠榮冠
- 三、勝てよ浦和優勝浦和
勝てるを稱へよ我が浦和
榮冠は我等が頭上
見よ我が選手は勝てり
榮冠榮冠
- 四、祝へ浦和祝福浦和
偉なるを仰がん我浦和
榮冠は我等が頭上
見よ我が選手は偉なり
榮冠榮冠

全國有名校歌集

六

水戸高等學校記念祭歌

全國有名校歌集

$\frac{4}{4}$	3455 5565 ときせん こんにう	i 3 3 2- つ る ひ へ	3466 5531 しゆんじゆう おひぬす	3 2 2 1 - う ひやく ねん
	i i i i 5555 よ-る き れきしを	3 2 1 3 5- ひめて たつ	6655 4433 す-い ふじやうとう	2 2 2 2 2 - なに たか き
	1231 3566 ときわの そのの-	556i 2- くまむて	i23i 7767 ことしり さうのは	3 2 2 1 - き さ き ら

水戸高等學校記念祭歌

一、時乾坤に移ろひて
春秋老ひぬ數百年
古き歴史を秘めて起つ
水府城頭名に高き
常盤の園の草分けて
今年理想の花咲きぬ

二、人高樓の夢に酔ひ
傳統の香に誇る時
消き尊き若き日の
まことの歩み運びつゝ
望みに燃ゆる若人は
此の花愛でて集ひ來ぬ

全國有名校歌集

三、あゝ混沌の唯中に
 匂ひ出でける清麗の
 理想の花を守りつゝ
 永久に培へ我友よ
 筑波嶺おろし荒ぶとも
 いなさの風は寒くとも

學びの宮に春たけて
 やがて實りの秋は來ん
 希望の光胸にしめ
 三年の行手偲ぶ時
 金殿深き歡樂の
 宴の榮も何かある

五、

あゝ我友よ諸共に
 暗き汚き人の世に
 この清らけき花かさし
 讃歌高く打あけて
 我等が生命の住家なる
 四寮の榮をたゝへよや

京都第三高等学校寮歌

$\frac{2}{4}$	<u>3. 5</u>	<u>5. 3</u>	5	<u>6. 6</u>	<u>5. 6</u>	<u>5. 3</u>	2	0
	し ら や ま	く も し ゆ う	な れ	び く い の	ひ え い せ い	い ざ う な う	ん け	
	<u>3. 3</u>	<u>3. 5</u>	6	<u>6. 1</u>	<u>2. 1</u>	<u>6. 1</u>	2	0
	も み づ	ち の れ い	い ろ	ろ に う の	そ め す い	ら れ く な く	て み	
	<u>6. 2</u>	<u>2. 7</u>	2	<u>7. 6</u>	<u>5. 5</u>	<u>5. 5</u>	6	0
	せ い ぶ ん	だ い く わ の	ひ か	け る ぜ に	か も ふ か	が わ た れ た	の る	
	<u>5. 5</u>	<u>3. 2</u>	1	<u>2. 3</u>	<u>5. 3</u>	<u>2. 1</u>	2	0.
	き し わ が	に ち さ ん	ぐ り よ	さ の う の	は な の き	を お た か	り し	

全国有名校歌集

九四

京都第三高等学校寮歌

一、白雲なびく比叡山

紅葉の色に染められて

青帯ひける加茂川の

岸に千草の花を織り

山秀麗の精を裏け

水玲瓏の粹を汲み

文化の風に吹かれたる

我が三寮の軒高し

全国有名校歌集

九二

二、

暗礁きわに波高く
 黒暗とづる海の色
 輕操浮薄風荒れて
 奢侈に耽れる暗世界
 濁浪汚波を打靜め
 四海を眼下に睥睨し
 神樂ヶ岡に飛雄する
 三舎の健兒百餘名

時永劫の火を燒し

希望の油そよぎつゝ

不斷の車輪轉じては

我等を乗する幾星霜

乗る人年に代はれども

乗する車は永遠に

自信の旗をひるがへし

理想の道を馳せて行く

四、

降魔の使命肩にかけ

破邪の弓矢を背に負ひて

獨立自主の劍をとり

三氣の駒に鞭打ちて

亂麻の天地かけ廻る

三舎の健兒奮起せよ

希望の彼岸爛漫と

名譽の美花は我を待つ

京都第三高等學校野球部歌

$\frac{2}{4}$

<u>5. 5</u>	<u>5. 5</u>	<u>6. 6</u>	5	<u>1̇</u>	<u>2̇</u>	<u>1̇. 1̇</u>	<u>6. 0</u>
し -	もに	みだ	る	あ	か	つき	の
<u>5. 5</u>	<u>5. 5</u>	<u>6. 6</u>	5	3.	<u>2</u>	<u>1. 1</u>	<u>1. 0</u>
しら	つゆ	ふみ	て	わ	れ	たて	ば
<u>1̇. 1̇</u>	<u>1̇. 6</u>	<u>5. 5</u>	5	6.	<u>5</u>	<u>5. 5</u>	<u>3. 0</u>
かぐ	らが	なか	の	あ	さ	かど	に
<u>1. 2</u>	<u>3. 3</u>	<u>6. 6</u>	6	5.	<u>3</u>	<u>2. 3</u>	<u>1. 0</u>
わか	きち	ゆら	ぐ	きよ	う	れつ	や

京都第三高等學校野球部歌

- 一、霜に亂るゝ曉の
神樂が岡の朝風に
白露踏みて我立てば
若き血搖ぐ興熱や
- 二、我行く處君も見よ
一舉に敵を蹴破れば
鐵路二百里東征の
向陵の軍正氣なし
- 三、櫻花の香芳ばしく
覇者の譽を擔ひたる
關の以西に幾歳か
我三高の野球團
- 四、活動の胸意氣の腕
長棍さけて我立てば
顯はさん時嗚呼來る
天地の精も聲上げん

大阪高等学校寮歌

全国有名校歌集

$\frac{4}{4}$ 1 3.2 1.3 5 | 3.5 5.6 5 - | 6 6.5 1.1 5.5 | 6.5 3.1 2- |
 あれい めい は ちか づけり あれい めい は- ちか づけり

3 3.5 3.3 2.2 | 1. 1 2.3 5 | 6 6.5 1.1 2.2 | 3.3 2.2 1- |
 たてよ わが とも じ ゆ う の こ てい り よ う さ ん か の れ つ け つ じ

3 3.3 2.3 1.6 | 5. 3 5.6 1 | 1 2.3 5.6 5 | 5.3 2.2 1- ||
 か ん が く の ベ- ん ち な は ら ひ て つ じ ん の こ ん き え ん と す

大阪高等学校寮歌

一、 嗚呼黎明は近づけり
 嗚呼黎明は近づけり
 起てよ我友自由の子
 帝陵山下の熱血兒
 侃諤の辯地をはらひ
 哲人の聲消えんとす

二、 嗚呼曉鐘は鳴り響く
 嗚呼曉鐘は鳴り響く
 三洲の野に殷々と
 強き響きを傳へつゝ
 舊殿堂の奥深く
 眠れる魂を醒ますべく

全国有名校歌集

三、城南高し三層樓

籠れる理想誰か知る
美酒玉杯に耽りたる
倫安の世を低く見て
文を學び武をば練る
五百の健兒君見すや

四、橄欖咲いて海青き

アテネの街の春の色
七丘の森秋更けて
ローマの古都に月高し
歴史はふれどオリオンの
三つ星いまだ光あり

五、それ青春の三春秋

交に友と呼びかはし
君が愁ひに我は泣き
我が喜びに君は舞ふ
若き我等が頬に湧く
その紅の血の響き

六、紫匂ふローレルの

葉蔭に寄りし美鳥が
一度目覚めて羽ばたかば
彼の大空に勇姿あり
友よ溢るゝ若き日の
希望の果をいざや見ん

大阪高等學校應援歌

全國有名校歌集

$\frac{4}{4}$ 3 3.3 3.2 1 | 1.6 6.1 5 — | 5 6.5 1.2 3 | 2.2 3.2 1— |
 さうきゆうたかく こんごうの みれにせんこの ひびきあり

5.5 6.5 5.5 3 | 5.5 6.5 5.5 3 | 1 2.3 4.4 3.1 | 3.3 2.2 1— |
 つきすみよしの かげきょく めてをかざして ながむれば

5.5 6.5 5.5 3 | 5.5 6.5 5.5 3 | 1 2.3 4.4 3.3 | 2.2 5.5 1— ||
 むらさきにほふ れいやうのしる ゆうしどうどう てんをます

101

大阪高等學校應援歌

一、蒼穹高く金剛の
 月住吉の影清く
 紫匂ふ滯陽の城

峰に千古の響あり
 右手を翳して眺むれば
 勇姿堂々天を摩す

二、剛氣強健新人の
 宇宙の眞理此の一擧
 胸に收めん文化の精

丹心劍に起ち上り
 嵐吹けノ花吹雪
 千古の力腕に鳴る

三、文化の泉滯陽の
 霸氣は玲瓏偉大なる
 世界の夢や醒まさなん

健兒の使命遠大の
 理想の光矢叫びに
 世界の同胞や救はなん

全國有名校歌集

101

名古屋高等商業學校々歌

全國有名校歌集

3/4

5. 5 | 1. 2 3.4 | 4 — 3.4 | 5. 6 5.4 | 3 — 1.2 |
 こう か ひ がし の そー ら な そー め むら

3. 2 1. 6 | 5 — 5. 5 | 6. 7 6 | 5 — 5. 5 |
 さ き に ほ ふ す す か ー れ い はる

5. 3 1 | 6 — 5. 5 | 1 — 2 | 3 — 5. 5 |
 け ん りやう に めぐ り て は らりや

6. 5 3. 1 | 6 — 5. 5 | 1 — 2. 3 | 1 — ||
 う み ど り の ま ひ こ る ー も

107

名古屋高等商業學校々歌

一、 降霞東の空を染め
 春劍陵に廻りては

紫句ふ鈴鹿嶺

二、 千木たか知れる神宮の

千歳の壽の影清く
 功績榮ゆる金鯨城

三、 見よ昌平の朝ほらけ
 錦纜解きて船かるや

雄々しく起てる若人の
 銀瀾冴ゆる伊勢の海

四、 あゝ其の行手滄溟の
 爛干清きマーキュリイ

鯨鯨如何に吼ゆるとも
 導く星の光あり

全國有名校歌集

107

Old Kwansei

(1)

Tune ev'ry heart and ev'ry voice
 Throw ev'ry care away;
 Let all with one accord rejoice
 In praise of Old Kwansei
 Cho In praise of Old Kwansei
 Her sons will give, while they shall live
 Banzai. Banzai Kwansei

(2)

Let music rule the fleeting hour,
 Let gladness fill the day;
 And thrill each heart with all her power
 In praise of Old Kwansei
 Cho In praise of Old Kwansei Gakuin,
 In praise of Old Kwansei
 Her Sons will give, while they Shall live,
 Banzai, Banzai, Kwansei

(3)

No flowry chaplet would we twine
 To wither and decay;
 The gems that sparkle in her crown
 Shall never pass away,
 Cho shall never pass away
 Shall never pass away
 Her sons will give while they shall live
 Banzai Banzai Kwansei

關西學院校歌

$\frac{3}{4}$

$\underline{\underline{5}}$ | $\underline{\underline{1}} \underline{\underline{0}} \underline{\underline{7}} \underline{\underline{1}} \underline{\underline{\sharp 1}}$ | $\underline{\underline{2}} \underline{\underline{3}}$ 4 5 | $\underline{\underline{5}} \underline{\underline{0}} \underline{\underline{3}} \underline{\underline{2.4}}$ | $\underline{\underline{3}}$ 0 $\underline{\underline{5}}$ |
 Tune ev'-ry heart and ev'ry voice, Throw ev,-ry Care a-way Let

$\underline{\underline{1}} \underline{\underline{0}} \underline{\underline{7}} \underline{\underline{1}} \underline{\underline{\sharp 1}}$ | $\underline{\underline{2}} \underline{\underline{3}}$ 4 2 | $\underline{\underline{1}} \underline{\underline{0}} \underline{\underline{7}} \underline{\underline{2}} \underline{\underline{\sharp 2}}$ | $\underline{\underline{3.3}}$ 0 |
 al with oneac - cord re joise, in praise of old Kwan-sei,

$\frac{6}{8}$

$\underline{\underline{3}} \underline{\underline{4}}$ | $\underline{\underline{5}} \underline{\underline{5}} \underline{\underline{6}} \underline{\underline{6}}$ | $\underline{\underline{5}} \underline{\underline{3}} \underline{\underline{1}} \underline{\underline{3}}$ | $\underline{\underline{2}} \underline{\underline{5}} \underline{\underline{5}} \underline{\underline{5}}$ | $\underline{\underline{5.5}} \underline{\underline{3}} \underline{\underline{4}}$ |
 in praise of Kwansei Ga-kuin in praise of old Kwan-sei, Her

$\underline{\underline{5}} \underline{\underline{5}} \underline{\underline{5}} \underline{\underline{\sharp 5}}$ | $\underline{\underline{6}} \underline{\underline{6}} \underline{\underline{5}} \underline{\underline{4}}$ | $\underline{\underline{3}} \underline{\underline{3}} \underline{\underline{4}} \underline{\underline{7}}$ | $\underline{\underline{1}} \underline{\underline{\cdot}} \underline{\underline{1}}$ ||
 sons will give, while they shall live, Ban - zai, Banzai, Kwan - sei!

College Song

全國有名校歌集

(1)

One purpose, Doshisha, thy name Doth Signify; one lofty aim; To train thy sons
in heart and heard To live for God and native Land Dear Alma Mater, sons of
thine Shall be as branches to the vine; The' through the world we wander far and
wide, still in our hearts thy precepts shall abide

(2)

We came to Doshisha to find the broader culture of the mind; we tarried here to
learn anew The value of a purpose true Dear Alma Mater ours the part To face
the future staunch of heart, Since thou hast taught us with high aim to stand
For God, for Doshisha, and Native Land

(3)

When war clouds bring their dark alarms, Ten thousand patriots rush to arms;
But we would through long years of peace Our Country's name and fame increase,
Dear Alma Mater, Sons of thine will hold their lives a trust divine steadfast
in purpose we will ever stand For God for Doshisha'and Native Land

111

同志社大學校歌

$\frac{4}{4}$

5 | 1. 3 5 5 | 3. 5 i i | 2 3 4 2 |
i. 7 7 5 | 3. 3 2. 2 # i. i | 2 — . 7 | 6. 6 7. i 7 6 |
5 — . 5 | 2. i 7 7 | 2. 5 5 5 | 4. 3 2 2 |
3. 2 i — | 5 — 5 # 5 | 6. 7 i i | i — 2 — |
3 — 3 — | i. i i i | i 3 5 4 | 3 — 2 — |
i — . ||

全國有名校歌集

110

奈良女子高等師範校歌

4/4

3		3̣. 2̣	1̣ 1̣		2̣. 4̣	3̣ 3̣		6̣. 5̣	4̣ 3̣		2̣—	0	5̣			
か		すが	のや		ま	-	にい		づ	1	る	ひ		のく		
5̣.	6̣	5̣ 5̣		1̣	—	7̣ 7̣		2̣. 1̣	7̣ 6̣	5̣# 4̣		5̣—	0	4̣		
も	ら	ぬ	ひ		か		りあ		ぶ	-	ぎ	-	つ		つか	
4̣.	3̣	2̣	1̣ 3̣		6̣.	5̣	5̣ 2̣		2̣. 6̣	5̣ 4̣ 3̣		2̣—	3̣	5̣		
さ	せ	や	こ-		こ	ろ	のは		な	-	さ	く-	ら		-	つ
1̣	—	5̣ 5̣ 6̣		7̣.	2̣	1̣	5̣		6̣ 5̣	4̣ 3̣	2̣. 3̣		1̣—	0		
め		よ	ま		と	-	の		し	-	へ	-	ぐ		さ	

奈良女子高等師範校歌

一、春日の山に出づる日の
くもらぬひかりあふぎつ
かさせや心の花さくら
つめよまことをしへ草

二、みなもと清き佐保河の
みぎはの柳うちはへて
ふるきをたづねあたらしき
道にすゝめやひとすぢに

神戸女学院校歌

$\frac{2}{4}$	3	<u>2 3</u>	<u>1 $\dot{1}$</u>	<u>7 6</u>	<u>5 3</u>	<u>1 2</u>	3	1
	ちあみ	ぬはめ	のれぐ	うおみ	みみの	のよつ	もにゆ	にーに
	2	<u>1 5</u>	<u>5 3</u>	3	<u>3 1</u>	<u>1 2</u>	3	0
	ておお	るくひ	つれし	きでわ	かすれ	げすら	のみは	
3	<u>2 3</u>	<u>1 $\dot{1}$</u>	<u>7 6</u>	<u>5 3</u>	<u>1 3</u>	2	1	
きなか	よみぜ	きなふ	みのき	ひます	かささ	リみぶ	にちも	
5	<u>6 3</u>	<u>5 4</u>	<u>6 1</u>	1	<u>2 3</u>	2	1	
またこ	などこ	ぶりる	ぞては	ういか	れそは	しまら	きんじ	

神戸女学院校歌

- 一、ちぬの海のもとに照る月かけの
清きみひかりに學ぶぞ嬉しき
- 二、あはれ大御代におくれですゝみ
をみなのままさみちたどりていそしまん
- 三、みめぐみの露におひし我等は
風ふきすさぶも心は變らじ
- 四、いはほに根させる常盤の松の
いやだかに榮へん我が學びの家

長崎醫科大學寮歌

2	5. 5	1. 2	3. 2	1	3. 3	5. 1	2	0
4	み な	み に	は し	る	し ら	く も	よ	
	5. 5	1. 3	5. 5	1	3. 5	3. 2	1	0
	グ ビ	ロ が	お か	の	あ き	た か	し	
	3. 3	3	3. 2	1	5. 5	5. 6	5	0
	だ ん	ち やう	は る	な	も た	ら せ	ば	
	1. 1	2. 3	1. 1	6	5. 5	3. 2	1	0
	か ん	ら ん	の そ	ら	か ぜ	か ほ	る	
	3. 2	1. 2	3. 5	5	3. 3	5. 6	i	0
	こ こ	ぞ い	し ん	の	わ か	う ど	が	
	5. 5	5. 6	5	1. 2	3. 5	2. 2	1	0
	シ ー	ボ ル	ト	し に	ま な	び し	ち	

長崎醫科大學寮歌

- 一、南に走る白雲よ
暖潮春をもたらせば
こゝぞ維新の若人が
 - 二、文化の潮高鳴りて
其の跡古りて人去れど
今また此處に鳳雛の
 - 三、杜鵑一聲雲に入る
巨人の跡を忍びては
麗はしきかな感激の
 - 四、黒潮むせぶ絶島の
虎狼の牙を折りしよ
あゝ風雲の西見づや
 - 五、あゝ汝若人よ
伏しては人を救べく
それ渾沌の浪の上に
-
- グビロが丘の秋高し
かんらんの空風薫る
シーボルト氏に學びし地
 - わが祖國をば打てる岸
其墓誌既に苔蒸せど
健兒集へり百餘人
 - 峨眉山南の夕まぐれ
誰ぞ向上を希はざる
若き涙ぞ頬を傳ふ
 - 黄の島人は劍に起ち
黄龍の浪ぞ岸を打つ
落日低く雲赫かし
 - 四年鍛ひしメス翳し
起ちては萬世の業就さむ
英姿一百起つを見よ

熊本醫科大學豫科校歌

全國有名校歌集

4/4

0 5 | 6 5 3 5 0 6 i | 2̇ — 5 0 3 5 | 6 i 0 6 2̇ i |
 や ま - は おお あ そ けぶ りは たえ-

5 — 5 0 6 | 2̇ - i 0 6 i | 5 . 3 5 0 1 2 | 3 2 3 5 6 5 6 7 |
 す - か わ は しら か - は なが れ - は - つ - き -

i — . 0 | 3 . 2 1 3 1 3 6 5 | 0 6 i 2̇ i 0 1 | 1 4 1 4 5 — |
 す いもまたみちなり かしこしと こ-し-へ

3̇ . 2̇ i 6 0 i 5 | 6 . 5 6 . 5 6 i i 2̇ | 3̇ . 2̇ i 6 2̇ . i 6 5 | 0 3 2 1 ||
 ラツシヨラツシヨよくわ ラツシヨラツシヨくまもとラツシヨラツシヨラツシヨラツシヨ われら

二八

熊本醫科大學豫科校歌

一、 山は阿蘇煙は絶えず
 醫も又道なり畏しとこしへ
 後唱 ラツシヨ
 河は白河流れは盡きず

二、 森の都は常盤にあをく
 醫はこれ濟世うるほせとこしへ
 ラツシヨ
 草は九品寺白露しげし

三、 メスを執りては度み深く
 醫は實に愛なり窮めよとこしへ
 ラツシヨ
 床に臨みて愁ふる篤し

四、 朝は夕はみ空を仰ぎ
 けにげに醫は道光れよとこしへ
 ラツシヨ
 愛し命を智に看て護る

我等 熊本 豫科
 我等 熊本 豫科
 我等 熊本 豫科
 我等 熊本 豫科

全國有名校歌集

二九

仙台第二高等學校々歌

4/4

5.4 3.5 1.2 3.3 | 2.1 2.3 2.0 | 5.4 3.5 1.2 3.3 | 2.1 2.3 2.0 |
 そーらはとうほく やまたかく みづきよきさとーひちしうの

3. 2 1.5 1.3 | 5. 4 3 3 | 6. 5 3 1 2 3 | 2 — • 0 |
 ひかりーしーなしへのよるとーこーる

3. 2 1.5 1.3 | 5. 4 3 3 | 2. 2 1 7 | 1 — • 0 |
 にーはーのーあしたのれいるうの

4.4 4.3 2.2 6.6 | 7.7 1.2 3.0 | 5.4 3.5 1.2 3.3 | 2.2 3.2 1 0 ||
 つーゆにちりなし ふみわくる われじんせいのーあきぼらけ

仙臺第二高等學校々歌

- 一、 天は東北山高く
光りし教の因る處
露に塵無し踏分くる
- 二、 花より花に蜜を吸ふ
不斷の渴とめ難く
湧き立つ血汐青春の
- 三、 思千里の青雲の
時の大河岸の砂
夕日の西に沈むとき
- 水清き郷七州の
庭の朝の玲瓏の
吾れ人世の朝ほらけ
- 蜂のいそしみ吾が勵み
知識の泉吸取らむ
力山をも抜くべきを
- 高き理想の身の生命
絶えぬ進歩の路のこせ
今日は空との憶みなく

弘前高等學校々歌

4/4

5.5 | 1.2 3.2 1.7 | 1- 5 5.5 | 6.6 6.1 7.6 | 5-0 5.5 |
 こく うに は-ば- た きみな みなは-か- る たい
 こう さんあ-ふ- ぎ てけい かうむ-か- ふ いに

1. 2 3.2 1.7 | 1- 5 5.5 | 2. 2 2.4 3.2 | 1- 0 3.3 |
 ほうわ-れ- ら のきしや うとか-ざ- す こう
 しへも-ろ- と らこのみちひ-と- つ ちか

5 — 3 3.3 | 5 — 3 1.2 | 3. 5 3 2.1 | 2 — 0 6.6 |
 が ん いた か ん りさ うのたか-き たと
 ら を たく わ へこ ろをれり- て ほん

1 — 5 1.2 | 3 — 5 3.3 | 3. 2 3 2 | 1 — 0 ||
 へ か いば き のいた いのすがた
 ど の きた よ りあらしのごとく

弘前高等學校々歌

一、虚空に羽ばたき南を圖る

大鵬我れ等の徽章とかさす

紅顔抱かん理想の高き

譬か岩木の偉大の姿

二、高山仰ぎて景行むかふ

いにしへもろとも此道ひとつ

力を貯へ心を練りて

本土の北よりあらしの如く

三、希望に溢れて光榮めざし

健兒よ活きたる世界に馳けよ

見よ〜文明進みてやまず

青春我が身にたゞ此の一度

岡山第六高等學校々歌

4/4

5 5 1 1 | 2̣1̣ 2̣3̣ 1- | 5 5 3 1 | 2 —• 0 |
 や ま む ら さ き に み づ あ を く

5 5 1 1 | 2̣1̣ 2̣3̣ 1- | 5 3̣1̣ 2 2 | 1 —• 0 |
 み る め さ や け き き び の く に

4 3̣2̣ 5̣3̣ | 4 3̣2̣ 3 1 | 2. 3 4 6 | 5 —• 0 |
 こ こ に か が や く り く り よ う の

5 5 1 1 | 2̣1̣ 2̣3̣ 1- | 5 3̣1̣ 2 2 | 1 —• 0 ||
 ひ か り も し る き ま な び の や

岡山第六高等學校々歌

- 一、山紫に水青く
 見る目さやけき吉備の國
 こゝに輝く六陵の
 光もしるき學の舎
- 二、前に流るゝ旭川
 後に仰ぐ操山
 水に理想の影浮び
 松に千歳の榮有り
- 三、身は青春の血に燃えて
 希望の花をかざしつゝ
 文の林に入りたてる
 健兒の群を此處に見る
- 四、春去りくれば霞立つ
 兒島の灣に船競ひ
 秋は月澄む金山の
 旅寢の夢も寒からず

松江高等學校々歌

2/4

<u>3. 3</u>	<u>5. 5</u>	<u>3 2 1</u> 6	<u>5. 5</u>	<u>1 2 3</u>	2.	0	
めも	はろ	ばーろと	もも	いーろ	の		
<u>2. 3</u>	<u>5. 5</u>	<u>3 2 1</u> 6	<u>5. 5</u>	<u>2 3 2</u>	1.	0	
はる	のく	もーゆく	おお	ぞーら	な		
<u>2. 2</u>	<u>2. 2</u>	<u>1 2 3</u> 5	<u>6. 6</u>	<u>6 5 3</u>	2.	0	
あふ	ぎて	たーてる	わか	うーど	に		
<u>3. 3</u>	<u>5. 5</u>	<u>3 2 1</u> 6	<u>5. 5</u>	<u>5 6 7</u>	1.	0	
さん	しゆん	きーよき	はな	のーか	げ		

全国有名校歌集

二三

松江高等學校々歌

- 一、目もはろばろと桃色の
春のくもゆく大空を
仰ぎて立てる若人に
三春清き花のかけ
- 二、あゝ此の若く圓かなる
丘にむすべる夢と夢
永遠の命にとけて行く
行方は知らず霞むかな
- 三、ふるさと遠く日は落ちて
四方の山脈むらさきに
夕月昇るみづうみの
舟に遊子の思ひあり
- 四、夏まだ浅き笹の上の
狭霧はるれば立ちませる
御子の剣の光今
我等の胸に宿るなり

全国有名校歌集

二三

五、鹿なく夕月山の

いたゞき草は長うして

かの英雄の夢のあと

弦月あはくつてらすかな

六、それ鴻はつばさ張り

豁然はれし日本海

茫渺紫紺波の上

青雲分けて旅ゆかむ

七、千里ほこれるシベリアの

黎明赤き空の色

秘めし古城にたゞすめば

蒙古の秋の陽は暑し

八、ガンヂス河に咲く花の

もゆる緋になく丘の子に

濁流ひろき大河ゆく

支那七月のつばくらめ

九、あゝ青春ぞいのちなる

血潮高鳴る男子らの

若く雄々しきまなざしは

焰と燃えて果てしらす

十、さげれ恵の丘の上に

夢安らげき思出の

花咲く園にかゞやける

大日輪のおごりかな

松本高等學校校歌

4/4

$\underline{3.4}$ | $5 - 3$ $\underline{1.2}$ | $\underline{1.5}$ $5 - 3.2$ | 1 5 $\underline{3.5}$ $\underline{1.3}$ |
 せん さ ん ばん がく - たか きな きそー

$\underline{2.5}$ - $\underline{3.4}$ | $5 - 3$ $\underline{3.1}$ | $\underline{2.6}$ $6 - 3.4$ | 5 $\underline{6.1}$ 3 $\underline{2.5}$ |
 ひ - そば た つしん しゅう - にほんのやの

$1 - 1.1$ | $1 - 1.2.1$ | $\underline{1.5}$ $5 - 3.2$ | 1 5 $\underline{3.5}$ $\underline{1.3}$ |
 へ いつ くわ んあま れく - れい きな たた

$\underline{2.5}$ $5 - 5.3$ | $1 - 1.1.2$ | $\underline{1.5}$ $5 - 6.5$ | 5 $\underline{6.1}$ 2 $\underline{3.2}$ |
 へ - みんなぞ くさま りて - すぐなるとこ

$5 - 6.4$ | $5 - 3$ $\underline{1.2}$ | $1 - 6$ $\underline{1.6}$ | 5 $\underline{1.2}$ 3 $\underline{2.5}$ | $1 - 0$ ||
 る わが か うなし へのせい かなてんす

松本高等學校校歌

- 一、 千山萬岳高きを競ひ
一賓あまねく靈氣を湛へ
我が校教への聖火を點す
 - 二、 あゝ友撓ます急がず學び
四海に漲る文化の潮に
意氣ある人世無窮に繼がむ
 - 三、 仰ぐは高山慕ふは理想
鯨鯢浮くべき波浪を湧かす
希望は輝く丈夫の未來
 - 四、 縣の森蔭陸の月日
後には忍ばん樂土の榮と
つとめよ青春再びあけつ
- 時つ信州日本の屋上
民俗勝りて直ぐなる處
 一步を進めて一步を据えよ
 貢獻各々其の分ありて
 細流次第に其水寄せて
 自治の訓しを心にしめて
 向上一路に並み居る今を
 嗚呼我が紅顏數白の健兒

神戸高等商船學校校歌

全国有名校歌集

4/4

3	-	2	1	6.	6.	1	6.	5.	6.	5	3	5-0-
ち		ね	の	う	ら	か	ぜ	し	づ	か	に	て
1.	1	3	3	2.	2	5	5	6.	5	3	6	5-0-
る	く	こ	う	の	み	れ		か	す	み	こ	め
5	5	6	6	5.	3	1	1	3.	3	2	1	5-0-
て	ん	ち	は	あ	ら	た	に	よ	み	が	へ	り
1.	1	3	3	2.	2	5	5	2	6	5	5	1-0-
わ	れ	ら	に	か	ん	き	の	さ	け	び	あ	り

三三

神戸高等商船學校々歌

- 一、ちぬの浦風静かにて
天地は新に蘇り
六甲の嶺霞こめ
我等に歡喜の叫あり
- 二、昇る朝日の影清く
沖に出で行く眞帆片帆
磯なれの松も緑はえ
吾等が覺むる時は來む
- 三、大海原の唯中に
鷗はなきて亂れとぶ
鯨は群れて潮を吹き
吾等が天地は海にあり
- 四、椰子の葉繁る南國も
紅燈さよめくベネチアも
オーロラ輝く北海も
吾等が心の宿とせん
- 五、八重の潮路を望み見て
寄せてはかえす波を見て
誰か故郷を觀ぜざる
誰か世相を觀ぜざる
- 六、見よ岸を打つ朝夕の
見よ茜さす六甲の
波には不息の力あり
彼方に不動の姿有り

全国有名校歌集

三三

名古屋第八高等學校々歌

2/2

1. <u>1</u> 5 . 5 1. <u>2</u> 3 — 6. <u>6</u> 5 3 5 — . 0	ぎ ん せ ん そ ら に ひ る が へ る
1. <u>1</u> 5 . 5 1. <u>2</u> 3 — 5. <u>4</u> 2 3 1 — . 0	り さ う ば た か き た か き せ ん れ い の
2. <u>2</u> 2 2 3. <u>2</u> 1 1 2. <u>3</u> 2 1 5 . — . 0	く - も な あ ふ ぎ て と う か い の
5. <u>5</u> 6 . 5 1. <u>2</u> 3 — 2. <u>2</u> 3 4 5 — . 0	ほ と り に ふ か く れ を お る し
5. <u>5</u> 6 . 5 1. <u>1</u> 5 . 5 1. <u>1</u> 2 3 2 — . 0	う - ま れ い で た る ひ と も と の
1. <u>1</u> 5 . 5 1. <u>2</u> 3 — 6. <u>6</u> 5 5 1 — . 0	わ か ぎ の す え の た の も し や

名古屋第八高等學校々歌

一、銀扇空にひるがへり
雲を仰ぎて東海の
生れ出でたる一本の

理想は高き仙嶺の
ほとりに深く根を下し
若木の末の頼もしや

二、牛をも隠す其幹は
乗切る船も作るべし
寄らぬ人なく生出でぬ

怒濤逆巻く大洋を
木蔭あまねき下蔭に
草やなからん、やがて見よ

三、朝日照りそふ神木立
夕日まばゆきあゆちがた
寄せくる浪はとこしへに

雲路かけゆく白鳥や
友よびつぎの濱の邊に
尊き歴史語るなり

静岡高等學校々歌

全国有名校歌集

4/4

5 | 1 5 1 2 | 3.4 5.6 5 1 | i. i 5 i.5 | 3 1 2 5 |
 き たにはあ まーぐーもは ばかる ふー じのれみ

6. 6 1 4 | 3 2 3 5 i i.6 | 5 3 3 1 2 | 3 5 2 1 1 |
 なみにみ どーりーのすー るがのうー なーばらた

i. 6 6 1 | i. 5 5 2.i | 6 5.3 5 6.7 | 7 — • 5 |
 へなるさかひにわれ らは—まな—ぶ た

i. 5 5 5 | i. 6 6 2.i | 6 5.3 5 6.i | i — • ||
 へなるさかひにわれ らは—まな—ぶ

一三

静岡高等學校々歌

- 一、北には天雲はどかる富士の嶺
 南に緑の駿河の海原
 妙なる界に我等は學ぶ
- 二、趙悟の白隠雄圖の長政
 偉人の風格仰ぎて進まむ
 未來の日本は我等を待てり
- 三、千古の大道この身に體して
 流轉の世相を裁きて進まむ
 亞細亞は指導を我等に待てり
- 四、北には天雲はどかる富士の嶺
 南に緑の駿河の海原
 妙なる界に我等は學ぶ

全国有名校歌集

一七

金澤第四高等學校々歌

$\frac{2}{4}$

$\underline{1. 1}$ あし	$\underline{6. 5}$ たに	$\underline{1. 2}$ あほ	$\underline{3. 3}$ ぐー	$\underline{1. 5}$ はく	$\underline{6. 1}$ さん	2	0	
$\underline{5. 5}$ せん	5 こ	$\underline{6. 6}$ ふめ	$\underline{6. 5}$ つの	$\underline{3. 3}$ しら	$\underline{5. 3}$ ゆき	2	0	
$\underline{3. 3}$ きー	$\underline{1. 6}$ いき	$\underline{1. 2}$ まご	$\underline{3. 3}$ ころ	$\underline{2. 3}$ たぐ	$\underline{2. 1}$ えつ	6	0	
$\underline{5. 5}$ はー	$\underline{6. 5}$ げめ	$\underline{1. 2}$ わが	$\underline{3. 3}$ とも	$\underline{5. 3}$ とき	$\underline{2. 3}$ じく	1	0	

金澤第四高等學校々歌

- 一、朝に仰ぐ白山の
清き真心類つゝ
千古不滅の白雪に
はげめ我が友ときじくに
- 二、夕べ見さくる北海の
いかでまさらむ正をふみ
百雷どよむ濤聲に
義を見て勇むをたけびの
- 三、天の門開きふり注ぐ
吹雪ふき捲く木枯も
五月雨空の常闇も
ますらを何かたゆたはむ
- 四、見よ見よ天の一方に
光さやけく輝けり
行手を照す北辰の
進め我が友いさ共に

新潟高等學校記念祭歌

2	3. 3	3. 3	3. 3	6. 7	1. 1	7. 6	7	0
4	せ い	た ん	こ	こ に	ひ と	と せ	の	
	4. 4	6. 4	3. 3	6. 7	1. 1	7. 7	6	0
	は	る は	ふ た	た び	め ぐ	り き	ぬ	
	7. 7	7. 7	7. 7	1. 6	4. 2	4. 6	7	0
	く さ	き	み ど	り に	も え	い で	て	
	1. 1	3. 4	3. 3	1. 6	7. 1	7. 7	6	0
	ひ ば	り は	た	か く	う た	ふ な	り	
	3. 3	4. 4	6. 7	1. 6	7. 1	7. 6	3	0
	わ	か き	は こ	り の	に ひ や	く に	ん	
	3. 3	6. 7	1. 1	3. 6	7. 1	7. 7	6	0
	ひ か	り を	あ ひ	て	お か	に た	つ	

新潟高等學校記念祭歌

(頌春の歌)

一、生誕こゝに一年の
草木緑に萌え出でて
若き誇りの二百人

二、搖れ立ち昇る陽炎や
一抹佐度ヶ島霞
希望憧憬わが象徴

三、あゝ青春の喜びは
漲る吾れが腕かな
かすりて過ぐる憂愁の

四、それ歡樂の悲哀を
やがて来るべき烈日の
運命の前の凋落の

五、無心の砂は崩れ来て
この麗日の丘の上
贅なき宴催せば

春は再び廻り來ぬ
雲雀は高く歌ふなり
光を浴びて丘に立つ
ふりさけ見れば紫雲の
被薔色雲よ眞白帆よ
乗せて漂ふ青海波
胸に溢れて熱き血の
さはれ微かにひそかにも
黒き眸に涙あり

ふと思ひ出し若人が
激しき戦知ればにか
一葉の影思へばか
鳶は舞ひ居り悠久を
頌春の歌あはせつゝ
散りこそかゝれ花の雪

山形高等學校寮歌

全国有名校歌集

4/4

$\underline{3.3} \underline{1.7} \underline{6.7} \underline{3.3} \mid \underline{1.7} \underline{6.7} 3 0 \mid \underline{3.3} \underline{1.7} \underline{6.7} \underline{3.3} \mid$
 はる のい ぶき のー ただ よえ ば ちに はな かー ほり

$\underline{3.1} \underline{7.1} 6 0 \mid \underline{7.7} \underline{1.7} \underline{6.4} \underline{3.3} \mid \underline{1.6} \underline{7.1} 3 0 \mid$
 くさ いろ ひ うす むら さき にー よー ぐも の

$\underline{3.4} \underline{6.6} \underline{6.4} \underline{3.3} \mid \underline{1.6} \underline{7.1} 6 0 \mid \underline{6.6} \underline{4.3} \underline{6.7} \underline{1.1} \mid$
 みな みの やー まに たな びき て かー すむ かは べの

$\underline{7.6} \underline{4.4} 3 0 \mid \underline{3.3} \underline{3.1} \underline{7.6} \underline{3.3} \mid \underline{3.1} \underline{7.1} \mid 6 0 \parallel$
 ゆふぐれに すみれの はー なの とこ を と ふ

一四一

山形高等學校校歌

- 一、春の呼吸の漂へば
薄紫によこぐもの
霞む川邊の夕暮に
地に花薫り草いろひ
南の山にたなびきて
堇の花の床を訪ふ
- 二、螢流るゝ夕河原
蟬なくかなた桑の葉の
嘯きゆけば陽はおちて
眺めは宏し風清し
茂み涼しき細道を
月影清し千歳山
- 三、嗚呼揺落の秋の聲
今落葉の響あり
丘邊のあした霜おけば
紅そむる千山も
芝蘭の薫消え失せて
龍山嶺に雪白し
- 四、都の塵を遠く去り
有象の海を流れゆく
不朽の緒琴おこそかに
千仞高き岸の上に
時劫の潮ながめつゝ
我らが寮を歌はずや

全国有名校歌集

一四二

熊本第五高等學校全寮歌

4/4

<u>3.3</u>	<u>3.4</u>	<u>5.5</u>	<u>4.3</u>		<u>1.2</u>	<u>3.1</u>	<u>7.0</u>		<u>1.7</u>	<u>5.7</u>	<u>3.4</u>	<u>5.5</u>		
あや	くも	は	ゆる		あ	け	ほ	の	に	あ	ま	そ	り	た
<u>4.3</u>	<u>4.5</u>	<u>4.0</u>			<u>3.3</u>	<u>3.4</u>	<u>5.5</u>	<u>4.3</u>		<u>1.2</u>	<u>3.1</u>	<u>7.0</u>		
ひん	が	し	の		そ	ぼ	う	の	す	が	た	を		
<u>1.7</u>	<u>5.7</u>	<u>3.4</u>	<u>5.5</u>		<u>7.5</u>	<u>4.3</u>	<u>4.0</u>		<u>5.7</u>	<u>5.7</u>	<u>5.5</u>			
の	ぞ	み	の	ひ	か	り			あ	た	ら	し	き	
<u>6.5</u>	<u>4.3</u>	<u>6.0</u>			<u>6.4</u>	<u>3.1</u>	<u>7.7</u>	<u>3.5</u>		<u>7.7</u>	<u>4.5</u>	<u>3.0</u>		
じ	う	は	ち	の	は	え	あ	る	れ	き	し	お	も	

熊本第五高等學校全寮歌

一、彩雲映ゆる曙に
蘇峰の姿を心とし
基礎茲に十八の

二、西神州に覇を唱へ
自治の樂土の木下蔭
枝もたはしの智慧の實を

三、強き翼を翻へし
躍れる胸は海潮の
力溢れて空高く

四、天際遠く白日の
奮ひて起てり意氣の人
一度び揮りし革命旗

五、波靜かなる東海の
時潮の波は荒くとも
生氣溢るゝその所

天そよりたつ東の
希望の光新しき
光榮ある歴史懐ふ哉
譽れは高き南龍の
爛熳花は咲き散りて
味ひ得たる若き子の
彼の天香を凌がむと
湧きつ流れつ鳴る如く
舞ひ立ち登る姿かな
光さへぎる雲を見て
ある武夫原の勝城に
妖雲散りしも夢なれや
汝不變の富士のごと
剛毅朴訥青春の
永久に香らむ五高魂

鹿兒島第七高等學校全寮歌

2/4

5. 5	1. 5	1. 2	3	4. 3	2. 5	3.	0
し ら	ん の	う み	に	か も	め と	び	—
3. 4	5. 1	6. 5	3	5. 5	6. 7	1.	0
れ う	ら ん	の の	に	こ て	ふ ま	ふ	—
2. 3	2. 6	1. 1	5.	6 7 1	3. 1	2.	0
は る	と こ	と は	の	く-に	な れ	や	—
3. 4	5. 5	6. 5	1	3 2 3	2. 7	1.	0
は る	と こ	と は	の	く-に	な れ	や	—

鹿兒島第七高等學校全寮歌

- 一、紫瀾の海に鷗飛び
春永遠の國なれや
寮亂の野に胡蝶舞ふ
- 二、一樹の影も宿世とや
旅の哀れも語らなん
ザポンの里に駒とめて
- 三、あはれ夕霧立單めて
微かに漏るゝ遊子吟
夢かと思ふ森の影
- 四、奇しき傳説の有りと
思ひを凝らす人や唯
悲水の邊り夜すがらの
- 五、あゝ南溟に懃ひして
圖南の翼伸さん
やがて大空遙々と
圖南の翼伸さん

山口高等学校々歌

$\frac{2}{4}$	<u>1. 1</u>	<u>1. 3</u>	<u>5. 5</u>	<u>5. 5</u>	<u>6. 5</u>	<u>3. 5</u>	<u>1̇</u>	0
	ゲン	ザノ	△ネ	ニ-	モユ	ルヒ	ノ	
	<u>3̇. 3̇</u>	<u>2̇. 1̇</u>	<u>5. 5</u>	<u>5. 5</u>	<u>1. 2</u>	<u>3. 6</u>	<u>5</u>	0
	アケ	コソ	ハユ	レ-	アサ	ボラ	ケ	
	<u>1. 3</u>	<u>1. 3</u>	<u>5. 5</u>	<u>6. 5</u>	<u>3. 2</u>	<u>1. 3</u>	9	0
	ク-	モノ	ヒビ	キニ	メザ	メケ	ン	
<u>6. 5</u>	<u>3. 2</u>	<u>1. 3</u>	<u>1. 6</u>	<u>5. 5</u>	<u>3. 2</u>	<u>1</u>	0	
ホ-	ヘン	ザ-	ンノ	スエ	トホ	ク		
<u>1̇. 1̇</u>	<u>1̇. 2̇</u>	<u>3̇. 3̇</u>	<u>2̇. 3̇</u>	<u>1̇. 1̇</u>	<u>6. 1̇</u>	<u>5</u>	0	
シホ	ナス	イ-	ラカ	テツ	ジョ-	ニ		
<u>3. 2</u>	<u>1. 2</u>	<u>3. 5</u>	<u>6</u>	<u>5. 3</u>	<u>2. 3</u>	<u>1</u>	0	
コモ	レル	リソ	ウ	タレ	カシ	ル		

山口高等学校々歌

<p>一、健兒の胸に燃ゆる火の 雲の響に眼醒めけむ 潮なす葦鐵城に</p>	<p>二、仄かに匂ふオリブの 古き文化は逝きぬれど 美し國原星澄みて</p>	<p>三、歐亞の天地風なきて 躍り出でけむ若き子の 重き使命の征矢あまた</p>	<p>四、坤輿にまよふ荊棘を あゝ東洋の大八洲 紹きて守りて我れ起たん</p>
<p>朱こそ映ゆれ朝ほらけ 鳳翔山の末遠く こもれる理想誰知る</p>	<p>花は空しく闇に散り 維新の光さし添ひし 柏ぞ戦ぐ深緑</p>	<p>平和の角笛の高鳴りに 額に閃めく鋏形や 簾ゆらぎぬ春夕べ</p>	<p>薙きて拓くは誰が任ぞ さやけく負へる正義の名 三千年の父祖の國</p>

佐賀高等學校記念祭歌

$\frac{3}{4}$

<u>5. 5</u>	5. 5		<u>3. 2</u>	1-		<u>2. 1</u>	2. 3		5 — 0
ホシ	カケ		アハ	キ		ハル	ノヨ		ニ
<u>3. 5</u>	6. 5		<u>3. 2</u>	1-		<u>2. 4</u>	3. 2		1 — 0
ハイ	シノ		モト	ニ		オモ	フカ		ナ
<u>2. 2</u>	2. 2		<u>3. 4</u>	5-		5 i	. 2		<u>3. 2</u> i-
トキ	ノオ		モヒ	ニ		ホロ	-		ビタル
<u>6. 5</u>	1. 2		<u>3. 6</u>	5-		<u>4. 3</u>	2. 2		1 — 0
アハ	シソ		ノヒ	ノ		アソ	フウ		ナ

佐賀高等學校記念祭歌

- 一、星かげあはき春の夜に
時代の思潮に滅びたる
廢趾の下に偲ぶかな
在りし其の日の殿堂を
- 二、銀杏の並木さ緑の
苦難の底ゆ萌え出づる
梢きほひて永久に
つきせぬ生命示すなり
- 三、學舎つくる槌の音
装なりて宴する
はるかにわたる初夏に
母校の榮を祝ふかな
- 四、追憶深き紀念祭
つらなる心すべしめて
築紫の廣野慕ひつゝ
共に歌はん限りなく

全國有名校歌集

[複製不許] (定價金卅五錢)

編者 東京音譜研究會
東京市下谷區坂本町三ノ三十五
發行人 市川松之輔
東京市下谷區入谷町三九六番地
印刷人 金山佐次

東京市下谷區坂本町三丁目卅五

發行所 博進堂書店

電話下谷四七三七番・振替東京四六〇一九番

(博真堂印刷所印行)

昭和五年四月十日發行



最新刊

野球界主筆

横井春野先生著

四六判美装(寫眞版數葉入)
定價金九拾錢・送料金五錢

軟式野球ゴーチ

白熱的大歡迎註日文に殺到

近時スポンチ野球の流行にめざましく保健
上體育上實に好恰にして且つ何人にも敵する
運動なり。而してスポンチを遊ぶ人々の爲め
に本書の生れたるは必然の結果にして投手を
はじめ内野手、外野手の守備の仕方或は打撃
走塁の指導等平易且つ親切に先生幾多の經驗
上より説明しある故如何なる初心の人も實地
に役立つ事勿論である。是非本書に依て益々
上達せられん事を望む。

右の様な疑問に對して普通一般の辭書にはない新らしい隱語を網羅し
て詳細な解釋と明快な解答を與へるのが本書である。殊に特種の部に
はモダン、演劇、映畫、花言葉、學者、相場等階級の如何を問はず是
非共知らねばならぬ特殊な用語符號俗語等を蒐めて註解してあるから
苟くも現代の尖端に生きる者には必ず備へねばならぬ一本である。

- ▶ こんな場合に使ふ言葉は何と
いふのかしら?
- ▶ 特殊な仲間ばどんな含言葉を
使つてゐるだらう?
- ▶ 普通にいふ此言葉は其道では
何といふのかしら?

新かんじ言葉辭典

津田異根氏著(最新刊)

寸珍制 三百廿頁 定價金七拾錢 送料金四錢

五版	家庭圖書刊行會	メートル法の解説	定價金三十五錢
四版	同	結婚禮式一切の智識	定價金九十錢
再版	深山江蘭	愛の手紙書方其辭典	定價金七十錢
六版	橋場秋梧	<small>模範</small> 式辭と弔詞	定價金八十五錢
十版	東山昌水	<small>自解習</small> 玉の撞き方	定價金壹圓貳拾錢
新刊	横井春野	軟式野球コ―チ	定價金九十錢
同	東京樂譜研究會	全國有名校歌集	定價金卅五錢

終

